

序章	中世の内裏女房を理解するために……………	3
はじめに	——問題点の提起——……………	3
一	研究史を振り返って……………	6
二	中世女房の数量的把握……………	9
第一部 中世禁裏女房		
第一章	内侍の職務と補任……………	23
はじめに	……………	23
一	内裏女房の職務……………	23
二	内侍の補任……………	31
(一)	内侍を「渡す」こと……………	32
(二)	『践祚部類抄』にみる剣璽渡御……………	36
三	勾当内侍——その成立をめぐる——……………	45

第二章 中世の内侍の復元

一	堀河天皇	54
	1 平仲子(周防)／2 藤原惟子(因幡)／3 藤原実子(遠江)／4 高階基子(肥後) ／5 その他	
二	鳥羽天皇	58
三	崇徳天皇	60
四	近衛天皇	62
	1 阿波内侍／2 備前内侍／3 良門流藤原氏の内侍たち／4 斎宫内侍	
五	後白河天皇	66
六	二条天皇	67
	1 伊予内侍／2 少輔内侍／3 丹後内侍／4 丹波内侍・三河内侍／5 兵衛内侍	
七	六条天皇	76
八	高倉天皇	79
九	安徳天皇	84
一〇	後鳥羽天皇	88
一一	土御門天皇	92
一二	順徳天皇・仲恭天皇	99
一三	後堀河天皇	104
一四	四条天皇	107

一五	後嵯峨天皇	110
一六	後深草天皇	113
	1 二人の伊予内侍／2少輔内侍／3尾張内侍／4弁内侍／5少将内侍	
一七	龜山天皇・後宇多天皇	118
一八	伏見天皇・後伏見天皇	121
一九	後二条天皇	125
二〇	花園天皇	128
二一	後醍醐天皇	132
二二	光厳天皇	137
二三	光明天皇	138
二四	崇光天皇	145
二五	後光厳天皇	146
	1 北朝の典侍たち／2 北朝の内侍たち	
二六	後円融天皇	156
二七	後小松天皇	157
	1 内侍の欠乏／2 勾当内侍藤原能子のこと／3 後小松天皇代の内侍	
二八	称光天皇	167
小	結	173

第三章 大納言典侍の成立……………178

はじめに……………178

一 大納言典侍の出現……………179

二 鎌倉時代の大納言典侍……………181

三 南北朝時代の大納言典侍……………186

おわりに……………191

第四章 室町時代の禁裏女房——後花園天皇の時代を中心に——……………196

はじめに……………196

(一) 上 臈……………198

1 正親町実秀女／2 藤原(三條)冬子……………202

(二) 典 侍……………202

1 藤原(広橋)綱子(大納言典侍)／2 藤原(日野)光子(有子、権大納言典侍)……………211

(三) その他の典侍たち……………216

1 藤原(中山)僚子／2 藤原(日野)頼子／3 新典侍(日野秀光女)／4 藤原(中御門・松木)継子(新大納言典侍)／5 藤原(甘露寺)親子……………216

(四) 内 侍……………216

1 菅原(東坊城)茂子(勾当↓宰相典侍)／2 菅原(東坊城)孝子(後小松院左……………216

衛門督↓中内侍↓勾当内侍↓典侍)／3 藤原藤子(新内侍↓藤内侍)／4 右衛門督／5 新内侍(左衛門督↓左衛門内侍)／6 新内侍／7 藤原(四辻)春子(小内侍↓右衛門内侍)

(五) その他……………221

1 和気郷子(伊与局)／2 賀茂?子(今參、後の播磨局?)／3 御乳人

おわりに……………227

第五章 戦国時代の禁裏女房(一)——上級女房——……………234

はじめに……………234

一 後土御門天皇の時代……………235

(一) 上臈……………235

1 正親町持季女／2 花山院持忠女(東御方↓上臈)／3 旧院上臈(藤原冬子)および若上臈(大炊御門信量女)

(二) 典侍……………242

1 藤原(広橋)顯子(頼子、大納言典侍)／2 源(庭田)朝子(新典侍↓新大納言典侍)／3 藤原(万里小路)命子(新典侍↓権大納言典侍)／4 藤原(勸修寺)房子(新典侍↓新大納言典侍)／5 藤原(広橋)守子(目々典侍↓権大納言典侍)

(三) 内侍……………247

(三) 内侍……………247

1 藤原(四辻)春子(勾当内侍↓民部卿典侍)／2 藤原修子(卿内侍)／3 菅原言子(新内侍)／4 菅原(東坊城)?子(左衛門内侍)／5 菅原(東坊城)松子(目々内侍↓新内侍↓中内侍)／6 藤原(四辻)夏子(新内侍↓右衛門内侍)／7 藤原(高倉)継子(新内侍)	245
(四) その他……………	245
1 播磨(賀茂某、御今參↓播磨)／2 伊与(和氣家子)／3 御乳人	261
後柏原天皇の時代……………	260
(二) 上 臈(大炊御門信量女)……………	261
(二) 典 侍……………	262
1 藤原(広橋)守子(大納言典侍)／2 藤原(勸修寺)藤子(新大納言典侍)／3 源(庭田)源子(新典侍)／4 藤原(勸修寺)尚子(目、典侍)／5 藤原(四辻)春子(民部卿典侍)	264
(三) 内 侍……………	264
1 菅原(東坊城)松子(中内侍↓勾当内侍↓菅大典侍)／2 藤原(高倉)継子(新内侍↓藤内侍↓勾当内侍)／3 藤原(姉小路)济子(新内侍↓宮内卿)／4 菅原(東坊城)和子(目々内侍)／5 藤原(水無瀬)具子(新内侍)／6 藤原(河鱈)清子(新内侍)／7 藤原(下冷泉)茂子(新内侍)	268
(四) その他……………	268
1 播磨／2 伊与(和氣就子)	268

三 後奈良天皇の時代……………271

(一) 上臈……………271

1 大炊御門経名女／2 三条公頼女

(二) 典侍……………272

1 藤原(広橋)守子(大納言典侍)／2 藤原(勸修寺)尚子(権大納言典侍↓大

納言典侍)／3 藤原(水無瀬)具子(新大納言典侍↓大納言典侍?)／4 藤原

(広橋)国子(目々↓権典侍)／5 藤原(中山)興子(新典侍)／6 藤原(勸修

寺)尹子(新典侍)／7 源(庭田)重親女(目々典侍)

(三) 内侍……………278

1 藤原(高倉)継子(勾当内侍)／2 藤原(姉小路)济子(宫内卿↓勾当内侍)

／3 藤原(下冷泉)茂子(新内侍)／4 藤原(高倉)量子(新内侍↓藤内侍↓勾

当内侍)／5 菅原(五条)好子(目々内侍↓新内侍)

(四) その他……………281

1 播磨(賀茂貞子、今参)／2 伊与(和氣就子とその妹)

おわりに……………282

第六章 戦国時代の禁裏女房(二) —— 下級女房たちを中心に —— ……285

はじめに……………285

一局の官女たち……………289

二	内侍所……………	296
	1 小督(長橋局の官女)／2 右京大夫(長橋局の官女)／3 五々(伊与局の官女)	
	1 さい(才・祭)／2 こい(五位)	
三	女孺……………	300
四	台所……………	302
	1 阿茶／2 か、／3 むめ(梅)	
	おわりに……………	308

第二部 室町時代の宮家の女房と尼

第七章	伏見宮家の女房たち……………	317
	はじめに……………	317
一	女房たちの構成……………	318
二	上臈の女房……………	326
	(一) 局 女(付)女官・乳人……………	326
	(二) 経済基盤……………	329
	(三) 職務……………	332
	(四) 里下り……………	336
三	女房の採用と改名……………	338
	(一) 女房の採用……………	338

一 『日記』に見える尼寺……………388

二 伏見に住むさまざまな尼たち……………394

三 伏見の尼寺……………398

1 宝厳院／2 惣得庵／3 香雲庵／4 芳徳庵／5 蒼玉庵・楊柳寺

おわりに……………403

第三部 女房と日記

第九章 中世の女房と日記……………415

はじめに……………415

一 「女流日記」と「女房日記」……………417

二 日記文学の質……………419

三 有識の女房と日記……………422

四 女房と「日記の家」……………426

五 男性の仮名日記……………433

おわりに……………436

第一〇章 『御湯殿上日記』の成立……………442

はじめに……………442

一 成立とその歴史的背景……………443

二	中世日記に見える女房関係記事	446
三	日記の記主とその形態	449
	伏見宮家の成立——おわりに代えて——	453
	天皇別女房一覧表①～③⑥	457
	主要関連系図1～17	491
	初出一覧／あとがき	
	人名索引（天皇／女房／その他）	

序 章 中世の内裏女房を理解するために

はじめに——問題点の提起——

中世前期（一二世紀から一四世紀）において、宮廷（院・女院等も含む）の女房たちが和歌や管絃・日記文学などの王朝文化に大きな役割を果たしていたことは、国文学・歴史学等さまざまな研究によって明らかにされている。さらにそれらに携わった個々の女房たちについても詳細な伝記的研究が進められているが、トータルな中世女房像はどうかというと、まだまだ不十分といい状況ではないかと考えられる。

この研究の立ち遅れの原因の一つとして、この時期の女房を制度史的に把握することの難しさがあげられよう。女房に限らず、中世社会は常に流動・変化しており、古代の令制を起源とするなかで、形骸化しながらも残っている部分、まったく新しく付け加わった部分などがパッチワーク状態に入り乱れ、それに武家・寺社勢力などによる新しい要素が付加され、影響を受けていくのであるから、その様相はきわめて複雑で、たまたまある時期の組織構造を復元しても、それがどれくらい維持されてきたのか、それともたまたまその時期そうなっているだけなのか、判別が難しいのである。

例えば、中世の宮廷女房の中心的役割を果たしていたのは、内侍司のスタッフのうち、典侍・掌侍（当該期、ただ内侍とよばれることが多い）であり、その淵源は当然令制にある。『後宮職員令』には、典侍四人、掌侍四人と

規定されているが、平安中期以後、その体制が維持されたかというところではない。鎌倉時代、一三世紀に順徳天皇によって制作された『禁秘抄』には、典侍四人、掌侍は六人となっている。⁽¹⁾ それでは、尚侍が任命されなくなった後、掌侍が二名増員されたのは、いつなのだろうか。

男性官人の場合、『公卿補任』や『藏人補任』『外記補任』などの補任類が残されており、『官職秘抄』や『職原抄』のような中世のある段階の手引き書の類が作成されているので、制度的な把握の手がかりとなるが、後宮の女房にはそういう類のものがほとんどない。結局、残されている断片的な情報を拾い集めて、「補任」的なものを作成し、そこから考えていく他はないと思う。材料としては、貴族の日記などに見える女房に関する記事、『中務内侍日記』『弁内侍日記』などの女房日記や和歌の詞書があげられ、さらに『本朝皇胤紹運録』や『尊卑分脈』など中世に成立した系図類などから丹念に女房に関する情報を拾い集め、それらを一つひとつ、つなぎ合わせていくことである。しかし、ここにもいくつかの問題点、困難さが存在する。

第一に、貴族の日記において、確かに女房たちは頻繁に儀式の場に現れるものの、ほとんどが、「内侍」もしくは「女房」と記されるばかりで、その実名まで記されることは多くない。印象としては、以前調査した下級官人の外記などより少ないように感じられる。これは、儀式の現場などで、貴族たちは彼女らと直接的な指揮・統属関係がなく、実名を把握していなくとも、運営などにそれほど影響がなかったためであろう。

第二に、女房たちも男官と同様に、女叙位や女官除目によって昇進がなされていくが、男性貴族にとつて自分たちのポストに影響することがないためであろう、身内でもなければ、記録する必要を感じなかったようである。

また、記主の立場によつて彼女らの記され方に精粗が大きい。例えば内侍（掌侍）の場合、藏人の任にある者は、天皇への報告を取り次いでもらうために頻繁に接し、おそらく誰が取り次いでくれたか控えておくため、日記には彼女らの実名が記される場合が多い。⁽²⁾ 典侍の場合、中世では侍妾的な性格を強めているため、彼女らに囲

続されている天皇自身の日記、もしくは娘・姉妹などがその任にあった者の日記には、実名が拾える可能性が高い。⁽³⁾

このような男性日記の欠点を補ってくれるのが女房日記の類であり、文学作品に分類されてはいるが、平安中期のものに比較して記録性を強めているそれらは、男性の日記に見られない大量かつさまざまな情報を提供してくれる貴重な存在である。

第三に、女房に関するデータを集める際のもう一つの困難さは、これら日記などにおける女房名の表記方法にある。叙位・除目などでは、男性と同様に「藤原朝臣某子」のようなかたち（氏＋姓＋名字）で記載され、この表記（以下、単に氏名とする）が形式的には実名といふべきなのであるが、実態は書類上の命名に過ぎず、同一人物なのに時期によって変わる場合もある。⁽⁵⁾

一方、日常的には、大納言典侍局や尾張内侍、伊予局、二条局や春日局などと女房名で呼ばれており、たとえ氏名をもっているとしても、両者が結びつかない場合も多い。例えば「春日祭掌侍高階業子美乃」（『中右記』寛治七・二・二）のように、二つの名を併記している記事があれば同定も容易なのであるが、実際はそうでない場合の方が多い。さらに、女房名は、仕える主人が変わったり、そこでの地位が上がると変更されることが多く、場合によっては、同じ日記の中で何種類かの呼称で記載されている可能性もあって、一人の女房を追っていくことを困難にしているのである。

本書では、このような困難を承知のうえ、あえて当該期の内裏の女房の中の掌侍（内侍）を対象にして、その歴史的な復元をはかることにする。

内侍を選んだのは、職務上、男性貴族・官人と接することが典侍などに比べて多く、また年中・臨時の行事における職務も多いので、比較的史料が豊富だからであるが、侍妾的な性格が強くなる典侍に対し、中世を通じて

て、女性官人としての性格を失わず、内裏の女房制度を支える存在と考えるからである。

時期としては、ひとまず中世成立期、日記などの史料が多く残りはじめる堀河天皇以降、室町時代の称光天皇までを対象とし、続く後花園天皇の時代以降については、上級女房全体を復元するので、それに接続していくことにする。また、天皇の代替わりごとに検討していくのは、決して便宜的なものではなく、内裏の女房たちにとって代替わりは、さまざまな意味を持ち、重要なエポックとなっているからである。

一 研究史を振り返って

本論に入る前に、中世の宮廷女房について簡単に研究史を振り返っておこう。

古くは浅井虎夫氏の『女官通解』⁽⁶⁾をはじめとして、戦前の奥野高広氏の皇室経済の研究の一環としてなされた後宮・女房関係の部分⁽⁷⁾、戦後に入って角田文衛氏の一連の研究⁽⁸⁾などが、古典的な研究としてあげられよう。どれもまず参照すべき重要な研究であるが、言うまでもなく、ここ三〇年間の中世の朝廷や貴族（公家）社会についての研究の大きな進展、さらに女性史研究の着実な成果を踏まえると、その古さは否めない。

ただし、その古さを感じていても、これらを凌駕するような、この時代全体を通じて俯瞰するような研究がまだまだなされていないことも、この時代における女房研究の理解を不十分なものとする原因となっているといえよう。

個別の研究テーマでは、まず、一九八〇年代の吉野芳恵氏⁽⁹⁾・五味文彦氏⁽¹⁰⁾の研究、九〇年代に入っの伴瀨明美氏⁽¹¹⁾の研究をあげるべきと考えている。

吉野氏は室町時代の勾当内侍を検討するなかで、一四世紀後半以降、女房職がいくつかの特定の「家」に相伝されるようになったことを明らかにされ、当時研究の乏しかった中世後期の女房を理解するための重要な視点を

提示され、以後の研究にも大きな影響を与えた。一方、五味氏の研究はきわめて多岐にわたるが、とくに女院研究の一環として、女院の女房を制度的に明らかにされた点は重要で、内・院・撰関家・諸家の女房に比して、家政機構内において中心的役割を果たしていたのは女院の場合のみとしてその意義を強調されている。また後白河院の場合はほとんどが院の近臣が伝奏を務めるが、後鳥羽天皇となって再び内侍の女房が申次として登場し、後鳥羽院政は、明らかに親政期の女房圍繞の体制を引きずっていること、「女房奉書」の成立の背景として、後鳥羽院政下における女房の政治的比重が高まるなかで、女房を媒介とする政治的文書が出されるようになったことを明らかにされている。中世においては、多数の女院の登場によって、女房の数も相当に増大したと推測される。『建礼門院右京大夫集』や『たまきはる』も女院の御所を舞台とした日記文学であり、和歌・音楽その他文化史的な役割も相当に大きい。五味氏の研究は、中世の女房全体を検討するためにも、研究の基礎となるものである。

伴瀬氏の研究は、女房そのものではないが、後三条・白河執政期に入ると、女御や中宮・皇后といった一定の結婚儀礼を経て天皇に入侍した人びと以外の女性たち（たとえば女房など）が天皇や上皇の皇子女を生むようになること、つまり前代、貴族たちの監督下にあった後宮が、天皇・院のイニシアチブによって編成されるようになることを明らかにされたもので、後宮の中世の変質を考えていく際、その前提とすべき研究である。このような後宮そのものの変質への理解を抜きにして、中世の禁裏女房を理解することはできない。

国文学の分野でも、作者の伝記研究は活発であり、研究も多いが、中世の女房全体の歴史的变化、もしくは本質まで論じたものはそれほど多くないようである。あくまでも歴史学の立場であるが、女房の日記への理解の深化を目的の一つとしている本書にとって、岩佐美代子氏の一連の研究には得るところが多い¹²⁾。

二〇〇〇年以降、個別の女房についての研究は多いが、全体を視野に入れた研究は少ない。しかし、服藤早苗編著『歴史のなかの皇女たち』（小学館、二〇〇二年）のように、それまでまとまった研究が乏しかった皇女たち

を対象としたもの、総合女性史学会編『女性官僚の歴史 古代女官から現代キャリアまで』（吉川弘文館、二〇一三年）のように、女房たちを女性官僚という別な視点を設定して、これまで見えなかった特質を、時代を越えてあぶり出しているという研究が現われ、内容的にはまだ従来の枠組みを超えるところまでには至っていないが、このような視点はさらに受け継がれ、展開していく必要があると思われる。

二〇〇〇年以降の研究で、とくに成果が上がっているのは、中世後期の室町幕府の女房研究ではないかと思われる。昭和初期の三浦周行氏による先駆的な研究⁽¹³⁾以来、日野富子とそれに関わる女房たちへの関心は深かったが、女房全体についての研究は少なかった。しかし近年、戦国期の幕府研究が進展していくとともに、將軍の御所に仕える女房へも関心が深まり、菅原正子・鈴木智子・設楽薫・羽田聡・西島太郎・花岡康隆・木下昌規ら各氏によってその研究は進展しつつある⁽¹⁴⁾。できれば、室町期の公武社会への理解が深まるなか、禁裏・仙洞・室町殿と区切ってしまうのではなく、それらが乗っている共通母体、つまり女房の世界全体についての研究を深める必要がある。本書では、幕府の女房までは検討が及ばなかったが、その視点は忘れてはならないと考えている。

平安中期の女房については、言うまでもなく紫式部の『源氏物語』に代表される宮廷女房に対する関心は古くからたいへん盛んで、概説的なものや個別の伝記的研究は数知れず存在するが、史料制約とこの時代の歴史的評価が難しい点により、意外と従来の研究の枠を超えるものは少ないように思われる⁽¹⁵⁾。

そのなかで、吉川真司氏の研究⁽¹⁶⁾は、もっともすぐれた成果であり、中世前期の女房を理解するためにも欠かせないものである。内裏における女官の奏宣の問題、平安中期、尚侍のキサキ化に伴い、典侍が女房の筆頭となる一方、天皇の乳母の地位が急上昇し、典侍と一体化すること、そして、キサキ（女御・尚侍）と女房（乳母・典侍以上）とが明確に分離されること、内侍宣の衰退・消滅から女房奉書が発生する過程を明らかにされたことなど、中世の女房研究にも影響を与えること大であるが、それらをただ援用しても始まらないのは確かである。平安

前・中期と中世では、女房たちが背負っているもの、また立たされている場所が相当に異なるからである。

また、最近まとめられた古代の女官についての伊集院葉子氏の研究は、女官のみならず、古代国家の機構内における女性の活動や役割そのものを問い直す研究でも刺激的である。一方、近世の朝廷の女官制度については、中・後期を中心に高橋博氏によって詳細かつ緻密な研究がまとめられている。さらに従来、史料的な限界もあって手がつけられていなかった下級の女官に対する研究も、中原俊章氏の「中世前期の研究」に加え、小林和子氏によって戦国期の下級女房に対する詳細な研究がなされており、彼女たちの公家社会に留まらない広範囲にわたる活動が明らかにされ、本書の第七章とあわせて、今後まだ追及していくべきテーマと考えられる。

本書もこれらの研究に刺激され試みられたものである。作業のなかで、古代から中世への展望はある程度道筋がつけられると感じたが、近世への接続はまだまだと思われる。とくに戦国末期から織豊期、さらに江戸初期を視野に入れた更なる研究が必要かと思う。史料の存在形態が異なるので難しい点が多いが、神田裕里・久保貴子氏などの研究をさらに膨らませて前進させる必要があるであろう。

二 中世女房の数量的把握

中世の朝廷やその周辺にはどのくらい女房がいたのだろうか。内裏などの下級女房や、貴族・官人に仕える女性たちをも含めれば、相当数に上るであろうし、乱暴な言い方をすれば、各時代の貴族（公家）社会の半分は、女房と言い切っても誤りではないであろう。

ただ、ここではもう少し限定したい。単に公的に補任されているとか、上級・下級といった身分、出自について、名家や羽林家といった、ある時代には通用するものの、中世全体をそれで論ずるにはあいまいな概念で切るのはなく、やや抽象的ではあるが、中世に多様に存在する内裏や院・女院御所などで働く、宮廷女房という同

僭越ながら、本書を中世文学の面白さを教えていただいたお二人の先生に献呈する。

第一は、岩佐美代子先生である。

実は、岩佐美代子先生には、これまで一度しかお目にかかったことがなく、それも三〇年以上前、東京で行われた第一二回日記文学懇話会での報告を依頼されて出かけていった時のことである。まだ昭和の、一九八七年八月二二日、大学入学以来、ずっと福岡で勉強していた私にとって、初めて福岡以外の地で研究報告を行なった時のことであった。

「日記の家の背景——十〜十二世紀の日記の発生と流行について——」というテーマの報告であったが、東京駅から会場に向かう山手線の車内で鞆を忘れたこともあり（幸い発表のレジユメなどが入った鞆は無事、問題の鞆も後日戻ってきました）、緊張して何を話したかよく覚えていない、たぶんずいぶんハチャメチャな報告であったと思われる。そのような私に、以後、今日に至るまで、ご研究の成果をさまざまな形で頂戴し、時にお送りしたものに親しくご返事をいただいた。そして、『弁内侍日記』や『中務内侍日記』『竹むきが記』など、先生が注釈を付された中世の日記文学のテキストに導かれて女房の日記への関心を深め、それが一つの流れとなって本書の中に注ぎ込んでいる。

また、先生は、ご著書の所々で独自の女房論を展開されているが、そのエッセンスといふべき「女房の眼——私のお宮仕え——」（『宮廷に生きる 天皇と 女房と』笠間書院、一九九七年）に感銘を受け、十分に理解できたわけではないが、そこで学んだ視点は本書のあちこちに垣間見ることができよう。今その学恩にあらためて感謝し、本書がいささかでもお応えできていれば幸いである。

もうお一方は、川添昭二先生である。

学部・大学院、そして研究室の助手を勤めた時期も含めて、一三年間を送った福岡では、母校の九州大学に当時中世文学を専門とされる教官がいなかったこともあり、恩師の川添昭二先生がほとんど唯一の師であり話し相手であった。中世史がご専門でありながら、先生の中世文学についてのご造詣は測り知れないものがあり、文献も数多くお持ちになられていて、本当に多くのことを学ばせていただいた。大学院の演習で宗祇の『筑紫道記』をテキストにされたことも、なつかしく思い出される。名古屋に赴任するにあたって、「中世文学の研究が活発なところだから、君の研究にとつても良い環境だよ」と励ましていただき、これこれの方にお目にかかるようにとご紹介もいただいた。

まさに、先生がおっしゃられた通りの場所だったと思う。ここ名古屋では、多くの優れた中世文学研究者の警咳に接することができ、研究会や調査に誘っていただいたり、拙い成果を聞いていただいたりと十分すぎる機会に恵まれた。そして、今もその恩恵を被っていることは言うまでもない。そのご縁で、歴史と文学のはざまのところまで書かせていただいた論文などもずいぶん溜まってきたが、それらをまとめる機会があれば、その時にあらためてお名前をあげてお礼を申し上げたいと思う。

もうひとつだけ。本書では、貞成親王の『看聞日記』に基づいた研究を多く所載しているが、この日記との出会いも、川添先生の下で勉強を始めた時までさかのぼる。

思い返すと赤面の至りであるが、三年生の終わりに卒論のテーマを決めるために先生の研究室をうかがった際、先生のご著書の『鎌倉文化』（教育社歴史新書、一九七八年）を読んで興味を持った早歌・宴曲の研究がしたいですと申し上げたら、先生は微笑まれるばかりで何もおっしゃらず（先生は決して「だめ」とはおっしゃらなかったが、「よし」と言われない限り、許可されていないことなのである）、さすがにと引き上げた次第であった。その後、似たりよつたりのテーマを携えて、数回通ったがなかなか「よし」と言っていただけで、結局教育実習から戻った七月に、やはり当時読んでいた横井清氏の『看聞御記「王者」と「衆庶」のはざまにて』（そしえて、一九七九年）が面白かったので、『看聞日記』でやってみます、と申し上げたら、やっとゴーサインをいただけました。

夏休み中、ずっと人名の索引を作りながら読んで、何とか一月の構想発表会で発表したが、横井氏の研究をトレースしただけの内容で、自身これではだめと痛感し、その後のひと月で必死にやり直して、何とか中世の雅楽の家の問題でまとめて提出にこぎ着けた。大学院に進学してから、この構想発表会の話題になった時に、先生も「これはだめだわ」と思われたそうで、いまだにこの頃のことは私の黒歴史として封印したい一コマであり、提出した卒論もコピーを取らず、文学部の書庫のどこかで永遠の眠りにについているはずである。

とにかく、この日記とはそれ以来の付き合いで、卒論後しばらくは開きたくなかったが、平安期の日記から読み進めて時代を下っていき、再びこの日記を読んでみると大変面白く、勤務先の学部三年生の演習のテキストにも使って読み進めてきた。出会ってから四〇年近くを経た今、本書にわずかながらも汲み上げる事ができた成果を載せる事ができたので、やっと卒論の呪縛から解放された気がしている。

川添先生は、今年三月二二日に九一歳でご逝去された。本書をお目につけられなかつたのは誠に残念である。先生の門下生なら誰もが身につける、史料の博搜ということを私なりに試みたものであり、今さらながらその学恩にいくら感謝しても感謝しきれない思いがする。先生のご冥福を心からお祈りしたい。

私の三番目の論文集となる本書を思文閣出版から上梓することができたのは、三年ほど前、共同研究員として参加した国際日本文化研究センターの研究会後の懇親会で、同社新刊事業部の田中峰人氏と同席した際に、中世の女房について一書にまとめてみたいという話を聞いていただいたことがきっかけとなっている。本年四月より学務が格段に忙しくなることがわかっていたので、何とか三月までに原稿をまとめて送ったものの不備が多く、その手直しが相当に必要であったが、編集を担当していただいた秦三千代氏に大変助けていただいた。あらためてお礼を申し上げておきたい。

二〇一八年九月二〇日

ねこがほら
猫洞通りの、とある珈琲店にて

松 蘭 齊

や	
薬師寺与一	299
柳原資明	149
柳原宗光【11】	148, 150, 187
柳原忠光【11】	149, 150
山科教遠	390
山科教言【9】	
山科言経【15】	288
山科言継【15】	284, 285, 287, 288, 293, 294, 297, 299, 300, 302~310, 312, 313, 370
山科言綱【15】	287, 312
山科言国【15】	254
山科定言	287
山科定国	287
大和刑部少輔	295
山村正次	312
楊梅重季	98
ゆ	
結城進斎	283
遊義門院(始子内親王)	18
有犬	349
よ	
用健	319, 330, 345, 395
陽清(石清水八幡宮)【16】	
陽徳門院(嬖子内親王)	183, 185
陽祿門院(藤原秀子)【17】	199, 344
吉田兼敦	157~160
吉見下総守	295
四辻季春	248
四辻季保 ㉒, ㉓	
四辻公音	44
ら・り	
頼仁親王	95

理永	390
理延(伏見宮 皇女)	390, 392
理勝	401
理仲	401
理通首座	390
隆守(宇治智恩院)	348
両繼(日巖院)【17】	409
亮子内親王	86, 87 → 殷富門院
良寿房	390
量仁親王 ㉔-9	133, 423
良珍法眼	184
良明房	349
林芳庵	390

れ・ろ

麗首座(真乘寺)	321, 340, 390, 396
冷泉為孝 ㉔	268
冷泉永基【12】	320, 321, 323, 340, 342, 351, 352, 354
冷泉永親	320
冷泉正永	342
六角義賢	307

わ

和氣郷成【13】	222, 223, 232, 241, 255
和氣広成【13】	222, 223
和氣親就	269
和氣富就【13】	255, 269
和氣保家	224
和氣保成【13】	210
和氣邦成【13】	232
和氣茂成【13】	320, 324, 338, 340
和氣頼成【13】	
鷲尾隆康	279

葆光院(治仁王)	392, 402, 406
細川晴元	299, 300
細川満元	402

ま

松尾兵部丞【15】	
松殿良嗣	184
松永久秀	277
万里小路惟房	275
万里小路賢房	273, 275, 283
万里小路嗣房	390
万里小路時房	196, 230, 301, 432
万里小路秀房	275
万里小路春房	244
万里小路冬房③③	244, 245, 258
万里小路藤長	150
万里小路輔房	275
満濟(醍醐寺三寶院)	206
満仁親王	390

み

御子左為道	184
水瀬重親	268
水無瀬英兼	267
水無瀬季兼③④【14】	266, 268, 275
源家長	433
源雅家	183
源(久我)雅光	431, 440
源(久我)雅忠	431
源雅亮⑨-6	85
源季兼④-13	64, 82
源季長⑧-13	82
源基仲②③-4	
源義経	101
源経頼	427
源兼時⑭-8, ⑮-4	106, 109
源顕兼⑫-6【3】	101~103
源顕清	102
源行遠	98
源資清	440
源師時	16
源(北畠)師重	182
源師重	180

源(北畠)師親	184~186
源重資【16】	362
源俊兼④-13	
源俊房	183, 192
源俊隆	66
源(手嶋)親弘⑥-1, ⑦-1, ⑧-1	68, 69
源長季②-4	59
源(中院)通氏	182
源(土御門)通親	105, 181, 182, 433
源(土御門)通方	182
源頼綱①-7	57
源頼国【1】	58, 65
源頼政	62, 70~72, 75
源頼朝	71, 72, 76, 101
源隆保	65, 66
妙喜房	390, 392
妙順房	393
三善為衡	124
三善維衡②⑥-4, ②⑧-2【6】	151
三善遠衡【6】	
三善基統	155
三善康衡	121
三善康統②⑧-6, ②⑨-4	142, 151, 155
三善師衡②①-4【6】	124
三善重統	155
三善俊衡②⑩-3, ②①-2【6】	122, 124, 134
三善春衡【6】	
三善成統	155

む・め・も

武者小路教光【11】	149, 150
紫式部	8, 18, 417~419
室町院(暉子内親王)	183
明覚	390
明元(玄)	401
明承法親王②⑧-4, ②⑨-2	140, 153, 156
明盛	349
明尊	390
めここ(伏見宮 皇女)	392
物加波懐国③⑩-7	163
物加波懐直	163
物加波懐通	163
物加波親尹	163

- 藤原聖子 →皇嘉門院
- 藤原説孝 **【1】**
- 藤原説定 **【1】** 65
- 藤原宗忠 54, 55
- 藤原宗隆 425
- 藤原多子 11, 12, 18
- 藤原泰子 61
- 藤原泰通 34
- 藤原知信 65
- 藤原忠雅 408, 430
- 藤原忠実 **【1】**
- 藤原(中山)忠親 73, 86, 181, 425, 428, 430
- 藤原忠成 ⑨-11 87
- 藤原忠宗 428
- 藤原忠通 59~62, 73, 74
- 藤原忠定 ⑫-8
- 藤原長兼 16, 93, 425
- 藤原長成 100
- 藤原長方 425
- 藤原長良 **【2】**
- 藤原定家 14, 16, 30, 65, 87, 93, 95,
99~101, 105, 106, 181, 424, 425, 433, 439
- 藤原定子 121
- 藤原定通 61
- 藤原(二条)定能 181
- 藤原定輔 58
- 藤原(二条)定輔 182
- 藤原貞憲 ⑧-14 64, 82, 84
- 藤原(九条)道家
108~110, 116, 126, 425, 434, 435
- 藤原道経 81, 83
- 藤原道綱母 418
- 藤原道長 417, 421, 439
- 藤原得子 →美福門院
- 藤原能成 ①-9, ⑩-7, ⑪-3, ⑫-4
57, 100, 101
- 藤原(一条)能保 95
- 藤原範季 ⑩-9 **【4】** 91
- 藤原範兼 **【4】**
- 藤原範光 **【4】** 91, 431
- 藤原(高倉)範資 152, 190
- 藤原範忠 ⑳-5 **【4】** 114, 122
- 藤原範朝 91
- 藤原保説 ⑥-1, ⑦-1, ⑧-1 68, 69
- 藤原邦綱 180
- 藤原有光 211
- 藤原有成 ③-9
- 藤原頼経 434
- 藤原(葉室)頼繼 **【15】**
- 藤原頼兼 **【1】**
- 藤原頼嗣 111
- 藤原頼長 **【2】** 18, 58
- 藤原頼通 439
- 藤原(四条)隆衡 182, 415
- 藤原隆信 ⑪-13, ⑫-5, ⑬-1, ⑭-1 **【1, 2】**
97, 105
- 藤原(四条)隆親 182, 185, 415
- 藤原隆通 183
- 藤原隆房 34, 102, 433
- 藤原(九条)良経 95, 425
- 敷政門院(源(庭田)幸子、南御方) **【16】**
17, 19, 243, 297, 319
- 豊楽門院(藤原藤子) 262
- ほ
- 輔益 ⑩-4, ⑳-2 120
- 輔仁親王 62
- 報恩院 409
- 宝厳院 400
- 法守法親王 **【3】** 120, 121
- 宝珠庵(蒼玉庵) **【17】**
319, 324, 345, 395, 408
- 北条経時 112
- 北条時氏 105
- 北条政子 72, 76
- 宝泉(伏見宮) 349, 350
- 法泉庵 390
- 芳徳庵 348
- 法仁法親王 184
- 法然 419
- 邦高親王(伏見宮) **【16】** 344, 454
- 邦輔親王 **【14】**
- 邦良親王 ㉑-8 133, 456
- 坊門清親 **【3】**
- 坊門基輔 ㉒-11 **【3】** 120, 123
- 芳祐房 390

藤原(広橋)兼宣	190, 194
藤原兼仲	16, 52
藤原兼良	184
藤原憲忠 ⑩-3, ⑪-2 [1]	92
藤原憲定 [1]	65
藤原憲頼 ⑩-6, ⑪-4, ⑫-1 [1]	65, 90
藤原顕憲 ④-15 [1]	58, 65, 95
藤原顕綱	58
藤原顕氏	415
藤原顕方	85, 88
藤原公雅 182, 362, 364, 366, 408	
藤原(西園寺)公経 ⑪-13	182, 201
藤原公兼	183
藤原公顕	183
藤原公行	97, 183
藤原公氏 ⑪-13, ⑫-5, ⑬-1, ⑭-1	97
藤原公実	60, 192
藤原公重	183
藤原公宣	30
藤原公泰 114, 117, 184	
藤原公任	427
藤原(洞院)公敏	182
藤原公房	184
藤原公明	75
藤原公隆 ⑧-6	
藤原光雅	70, 75
藤原光綱 ④-10, ⑤-1, ⑪-5	63, 96
藤原光国	434
藤原光時 ⑯-3, ⑰-6	111, 114
藤原光種	142
藤原(葉室)光親	181
藤原光盛	433
藤原光忠? ④-10	
藤原光房 ④-10, ⑤-1	63, 98
藤原光頼	70
藤原(日野)行光(光種) 140, 142, 154	
藤原行成 [5]	
藤原行能	79, 80
藤原高(定)嗣	125, 435
藤原孝時 ⑯-5, ⑰-2, ⑱-2 [5]	
	106, 111, 115, 415
藤原孝秀 ⑳-3 [5]	124, 125
藤原孝章	124

藤原孝長 [5, 13]	207, 222, 223, 241, 255
藤原孝道 ⑭-参 [5, 8]	106, 435
藤原資仲	427
藤原資平	427
藤原資房	439
藤原師藤	184
藤原実顕	183
藤原実光	433
藤原実綱 ⑥-5	183
藤原(西園寺)実氏	182, 415
藤原実資 421, 427, 428, 439	
藤原実時	183
藤原実守	183
藤原実盛	117
藤原実宗	56, 183
藤原実忠	75
藤原実定 ①-8	55
藤原実冬	183
藤原実能	74
藤原実方	58, 415
藤原(洞院)実雄	182
藤原実頼	439
藤原種範 140, 142	
藤原脩範	84
藤原重名 ⑰-7	415
藤原俊成 ④-13	65, 87, 103
藤原俊通	183
藤原信賢 ⑧-8	
藤原信実 ⑭-7, ⑮-2, ⑰-4, ⑰-5 [2]	
	105, 113, 115~117, 415
藤原信西 ⑤-1, ⑧-14	64, 82, 84
藤原(坊門)信清	181
藤原親経	86
藤原親俊 ⑰-9	183, 184, 424
藤原親盛 ⑤-2, ⑥-2	
藤原親隆	75
藤原成親	75, 183, 184, 424
藤原成定 ⑦-6	78
藤原清氏	127, 428, 430
藤原清隆 [1]	
藤原(日野西)盛光	190
藤原盛実 ①-7 [1]	58, 65
藤原盛忠	89

東坊城長遠 ③④ 【10】 172, 252
 東坊城長頼 ③②, ③③ 【10】 216, 218, 231, 252
 東坊城和長 ③④ 【10】 44, 251, 253~255
 比企尼(丹後内侍母) 75, 76
 日野家秀(秀光) ③② 211~215, 230
 日野兼郷 ③② 242
 日野行光 ②⑨-3
 日野行氏 136
 日野資教 【11】 149, 188, 190, 208
 日野資国 365
 日野資親 【11】 210, 230
 日野資朝 【11】
 日野資名 【11】 149, 150, 187
 日野資明 【11】 228
 日野時光 147, 149, 150, 187, 188
 日野秀光 【11】 390
 日野俊基 136
 日野俊光 【11】 189
 日野重光 【11】 364
 日野重子 364
 日野勝光 245
 日野仲光 149
 日野富子 8, 198, 237, 246, 257
 日野豊光 229
 日野有光 ③② 【11】
 188~190, 203, 207~210, 212, 213, 229
 日野西盛光 190
 美福門院(藤原得子) 12
 広橋兼郷(宣光) ③③ 【11】
 187, 189, 190, 205, 211, 214, 230
 広橋兼顕 194
 広橋兼綱 【11】 156
 広橋兼秀 ③⑤ 【11】 267, 275~277, 312, 456
 広橋兼宣 ③② 【11】
 170, 187, 189, 196, 200, 203, 205, 229, 393
 広橋綱光 ③③ 【11】 187, 196, 200, 202, 213,
 218, 230, 247, 258, 262
 広橋国光 ③⑥ 306
 広橋守光 【11】 194, 267, 275, 276
 広橋春龍丸 230
 広橋新松丸 189
 広橋宣光 【11】 170
 広橋仲光 【11】 390

ふ

藤原苺子 18, 55, 192
 藤原(世尊寺)伊行 435
 藤原伊実 183
 藤原伊周 121
 藤原惟基 78, 88
 藤原惟経 ①-3 【1】 55
 藤原惟方 ⑨-8, ⑩-5 77, 78, 87, 88, 90
 藤原為家 93, 182
 藤原(京極)為教 【6】 182, 183, 193
 藤原為業 ⑥-5 【1, 2】 65
 藤原(御子左)為氏 193, 415
 藤原為実 ⑩-7
 藤原為信 ②②-2, ②④-2 127, 133
 藤原(御子左)為世 182~184, 193
 藤原(御子左)為定 348, 402, 403
 藤原育子 11, 12, 18, 73, 74
 藤原尹明 ⑨-10 87, 88
 藤原(冷泉)永経 ②⑩-4 122, 129
 藤原永範 ⑧-5 79
 藤原(冷泉)永輔 129
 藤原(近衛)家実 59, 83, 126
 藤原家成 180
 藤原家通 415
 藤原家隆 76
 藤原(法性寺)雅平 115
 藤原季行 98
 藤原(持明院)基家 182
 藤原基実 77
 藤原(近衛)基通 81, 83, 107, 108, 424
 藤原(松殿)基房 78, 424
 藤原(九条)教実 109
 藤原教通 427
 藤原経光 16, 28, 48, 52, 106, 107
 藤原(冷泉)経康 ②③-8, ②④-3 【12】 129
 藤原経俊 430
 藤原経房 85~89, 98, 429
 藤原兼雅 428
 藤原兼高 425, 439
 藤原(九条)兼実
 90~92, 95, 101, 106, 109, 177, 424, 433
 藤原兼成 【1】 101

月輪家輔 ㉔	211, 212
土御門禪門	320
土御門有春	450

て

貞敦親王(伏見宮) 【14】	261
貞常親王(伏見宮) 【16】	297, 324, 325, 328, 335, 340, 344, 357, 371, 379, 453
貞成親王(伏見宮) 【17】	161, 162, 169, 171, 173, 196, 197, 201, 204, 209, 226, 230, 233, 243, 297, 317, 319, 320, 322, 323, 325 ~327, 332~335, 339~346, 349~359, 361, 363, 367, 368, 371~384, 387, 389~396, 398~407, 410, 411, 446~448, 453, 454

と

洞院公賢(後醍醐天皇)	130
洞院公守	201, 236
洞院公数	200, 202, 236, 237
洞院公定	71
洞院実雄	201
洞院満季	199, 200, 228
道守(妙香院宮) ⑪-6, ⑫-3	95, 96
等心庵	390
等清(石清水八幡宮) 【16】	
道仁法親王 ⑪-12	96, 99
篤子内親王	57
徳大寺公孝	136
徳大寺公俊	390
徳大寺公能	441
徳大寺実家	441
徳夜叉	298, 300
豊原郷秋	349
頓阿	117

な

中原康富	196, 367, 372, 378, 380, 386
中御門宣胤 【15】	287, 313
中御門宣綱	295
中御門(松木)宗継 ㉔	194, 211, 212, 228
中御門宗宣	312
中山家親	187
中山宣親 ㉕	277

中山定親	196, 202, 210, 444
中山満親 ㉔	189, 190, 203, 211
半井明英	281

に

西入道知祐	251
西洞院時慶 【7】	288, 291, 292, 296
二条尹房	282
二条資教	160
二条冬実	399
二条道平	139
二条良基	139, 147, 163, 178, 318
日権院	409
新田義貞	132
如浄房	390
庭田雅行 ㉔ 【16】	262, 291, 312
庭田経有 【16】	129, 131, 169, 297, 319, 333, 363, 371, 383, 411, 446
庭田重経	239, 240
庭田重賢 ㉔ 【16】	243, 319, 354, 374, 378, 381, 382, 386, 394, 407
庭田重親 【16】	273, 278
庭田重保 【16】	
庭田重有 【16】	226, 319, 321, 322, 328, 334, 335, 339, 340, 342, 344, 349, 362, 365, 371, 376, 381, 383, 389, 393, 394, 407, 411

は

はい(伏見宮 皇女)	392
橋本公国	320
橋本実郷	320, 341, 364
八条院(暲子内親王)	424
春鶴	294, 295
万秋門院(藤原頊子)	183

ひ

東一条院(藤原立子)	95, 425
東御寮(入江殿)	389, 392
東二条院(藤原公子)	183
東坊城益長 ㉔, ㉕ 【10】	218~220, 250~252, 301
東坊城秀長 ㉕-8, ㉕-3, ㉕ 159, 168, 172, 203	

平清盛【7】 33, 34, 52, 424
 平盛子 ⑦-2 77, 78
 平盛信 69
 平宗盛【7】
 平知信 82
 平通盛 76
 平棟基 ⑮-6, ⑮-1【7】 112
 平棟俊 ⑳-1【7】 126
 平棟仲 ①-2 ②-1【7】
 平棟範 112
 平徳子 82
 平範国 110
 高倉永家 ⑮ 279, 303
 高倉永経【12】 407
 高倉永継 ⑳, ㉑ 253, 254
 高倉永盛 ㉒, ㉓【12】 220, 250
 高倉永知 220, 250
 高倉(冷泉)永藤 ㉔-6, ㉕【12】
 203, 216, 218
 高倉範蔭 ㉖-1【4】 152, 161
 高倉範久 268
 高倉範資 ㉘-3, ㉙-1【4】 152
 高倉範春 152
 高階為遠【3】
 高階為章 ③-3【3】 59, 61, 121
 高階遠経 ㉚-1【3】 120, 128
 高階家行 ⑤-3 67, 121
 高階基実 ①-11 56, 121
 高階経秀 ㉛-5 163
 高階経仲 ㉜-11【3】 120, 123
 高階経茂 128
 高階光兼 ⑩-7, ⑩-3, ⑩-4【3】 91, 101
 高階重経 128
 高階重仲 84
 高階俊経 401
 高階成景 ⑨-4
 高階成忠 121
 高階清章【3】
 高階盛章 ⑨-4, ⑩-2, ⑩-1【3】
 85, 88, 96, 121
 高階泰経 ⑩-6【3】 102, 103
 高階泰兼 ⑧-2, 3, ⑨-1, ⑩-1【3】 79, 121
 高階仲資 ⑪-12【3】 91, 96, 121

高階敦遠 56
 高階邦経 ⑩-1, ⑩-1, ⑩-1【3】
 119, 124, 128
 高階茂経 163
 鷹司院(藤原長子) 126
 高辻宮 186
 高島神九郎 299, 300
 高島大和守 305
 高島与三郎 298~300, 305
 高島与十郎 299
 高間 401
 橘知興 ㉞-5【9】 170
 橘知任 ㉞-2, ㉞-4, ㉞-2【9】 140, 153
 橘知繁 ㉞-4, ㉞-2【9】 140, 153, 156
 橘知茂 114
 塔頭御寮(宝殿院) 348, 390, 399
 田中承泉 322
 玉櫛禅門 391, 399
 田向経秀 320
 田向経良(兼)【16】 169, 319, 339, 349,
 351, 362, 363, 365, 381, 384, 399, 401, 407
 田向長資【16】 319, 320, 334, 335, 363, 381

ち

智閑 252
 智観(鳴滝殿)(伏見宮 皇女)
 319, 328, 390, 392, 402
 智久(伏見宮 皇女) 319, 391, 392
 智俊 400
 知仁親王 269
 千鶴 295
 仲寿 390
 長厳 96
 長照院 408
 長清 134
 長楽門院(藤原忻子) ㉟-2, ㊱-2 136, 164
 澄雲 73
 澄舜 106
 直仁親王 145, 201, 390, 402
 ちよゝゝ(伏見宮) 322, 392

つ

通首座(大性院)【8】

菅原在仲 ㉔-4	133
菅原淳高 16-4, 17-3	111
菅原長成 17-8	
薄以繼 【15】	304, 313
薄(橋)以緒 ㉓, ㉔ 【12, 15】	
	279, 281, 303, 370
諏訪俊郷	298, 311
諏訪神右兵衛 (諏方神兵衛尉)	298, 311

せ

正恵西堂(建仁寺)	336
西雲庵(入江殿) 【14】	
	206, 340, 359, 364, 390, 392, 393, 405, 406
西華門院(源基子) 【7】	
成仁王	223, 224, 453, 454
成良親王	134
性恵(入江殿)	
	226, 319, 328, 356, 359, 361, 371, 390~393
清光院(佐子局)	17
清少納言	418
聖助法親王 ㉔-4	133
聖尊法親王	184
聖智	390
誠仁親王	275
静恵法親王	95
世尊寺経尹 ㉓-9, ㉔-1	132, 133
世尊寺行資	349
世尊寺行俊 【16】	401
世尊寺行信	138
世尊寺行豊 【16】	390, 394, 401, 411
世尊寺行房	132, 133
世尊寺定兼	138
宣政門院(権子内親王) ㉔-7	134, 135
千本比丘尼 【17】	
善覚房	390
善斎(梅津湯陽院)	364
善子内親王	57
善侍者	390

そ

素順	390
三木善康	402
三木善祐	410

三木善理	349, 350
宗祇	252
宗順房	390
宗西堂	319, 340
宗尊親王 【7】	111
宗珍房	390, 394, 400
窓順	390
惣得庵	321, 340, 348, 381, 395, 400, 401
蒼玉庵	319, 395, 403
藻壁門院(藤原璋子) 【2】	116, 126
園以清	313
園基国	313
園基隆	150
尊円法親王 ㉔-3, ㉔-2 【6】	123, 134
尊基	407
尊久	390
尊真	135
尊鎮法親王	262
尊伝法親王	258
尊良親王	184

た

待賢門院(藤原璋子)	60
大姫御前	69
大慈光院覚音	263
大通院(栄仁親王)	361, 393, 395
大納言法印(円光院)	162
平維盛	184
平教盛	76
平業房	73
平業光	430
平行知	150
平資盛 6-2	70
平時兼 14-3, 15-3	82, 104, 107, 108, 126
平時子 【7】	83
平時信 【7】	126
平時忠 8-4 【7】	79, 83, 121
平滋子(建春門院) 【7】	52
平重衡 9-3	
平重盛 6-2	70, 75, 180
平信季	81, 84
平信国 8-12, 9-2	81, 82, 85
平信範 8-11	80, 81, 83, 110

三条実勝 335
 三条実盛 117, 184, 185
 三条実冬【14】 155, 199, 202
 三条実豊【17】 364, 391, 408
 三条西公条 299, 347
 三条西公保【17】 248, 291, 335, 407
 三条西実枝 284
 三条西実清【17】 390, 393, 407
 三条西実隆 242, 246, 248, 249, 252, 259,
 261, 271, 287, 290, 291, 299, 347, 370, 393,
 407
 三位尼 239, 240

 し

 滋野井季国 297
 滋野井公古 306, 307, 313
 慈光寺光仲 169
 慈光寺持経 224, 349, 390
 慈光寺持仲【8】
 慈助法親王 182
 四条顕保 150
 四条隆蔭 148, 149
 四条隆郷 150
 四条隆資 135
 四条隆持 320, 396
 四条隆親 185
 四条隆政 149
 四条隆盛㉔ 213
 四条隆直 402, 411
 四条隆富 340, 354
 治仁王(伏見宮) 319, 324, 326, 327, 329,
 339, 341, 358, 371, 389~391, 393, 402,
 406, 446
 七条院(藤原殖子) 183
 実意(安祥寺) 348
 実賢(阿闍梨) 68
 実際(載)庵 390
 芝俊阿 363, 399
 芝殿(田向経良妻)【16】
 169, 339, 340, 362, 363, 399
 治部大藏丞光栄㉕ 294, 295
 治部又四郎 295, 302
 島田定直 354

持明院基親【13】 222, 223, 232, 255
 守子女王(斎宮) 62
 守貞親王 104
 寿成門院(嬬子内親王)【7】 126
 寿藏主(行藏庵) 320, 347, 396, 399
 秀仁親王 106
 周瑞房 390, 394
 修明門院(藤原重子)【4】 91, 122, 183
 春華門院(昇子内親王) 100, 183
 舜藏主 399
 順仁 390
 昭慶門院(憲子内親王) 18
 聖護院宮 95
 勝仁親王 246, 253, 262, 263
 承明門院(源在子)【2】 105
 浄玉房 390
 常宗(清原良賢) 349, 366
 常德庵 390
 白川(伯)業定 149
 白川(伯)顕広(花山源氏、顕広王)④-16
 65, 66
 白川(伯)顕邦 149
 白川(伯)資継 149
 白川(伯)資光 116
 白川(伯)資清 149
 白川(伯)忠富 239, 240
 真栄(伏見宮 皇女) 319, 390, 392
 真幸(四条隆直女) 402
 真修院 406
 真照庵 390
 深性法親王【6】 121
 新待賢門院(藤原廉子)㉔-6
 仁尊法親王 238
 尋尊(大乘院) 229, 245

 す

 瑞室 390
 瑞藏主 390
 崇賢門院(紀仲子)【11, 16】 208, 393
 陶晴賢 282
 菅原為綱【10】
 菅原(東坊城)顕長㉓ 220, 250~252
 菅原孝標女 418

惠明房	390
兼覚	106
建春門院(平滋子)【7】	
14, 18, 52, 66, 74, 103, 126, 183, 184	
建礼門院(平徳子)⑧-11, ⑧-14【7】	
15, 82, 83, 98, 183	
乾藏主	399
賢俊(醍醐寺三宝院)【11】	147, 154
憲仁親王	52
顯慶	349, 350
顯如(本願寺)【16】	
元経(宝厳院)	407
元慶(宝厳院)	407
元揉(伏見宮 皇女)	392
玄経(宝厳院)【16】	399, 407
玄慶(宝厳院)	395, 407
彦胤法親王	263
彦仁王(伏見宮、後花園天皇)	
197, 204, 226, 243, 322, 328, 342, 359, 360,	
371, 379, 389, 404, 446, 455	

乙

公海(報恩院)【17】	409
広義門院(藤原寧子) 119, 124, 131, 146,	
147, 150~152, 183, 189, 201	
広時	321, 349
光教(本願寺)【16】	
光濟(醍醐寺三宝院)	228
光照院上臈	321, 340
光藏主	321
高和泉守	295
高土佐守	320, 339, 340, 363
高師直	136, 146
恒明親王	437, 456
後京極院(藤原禧子)②④-6	133, 134
香雲庵	348, 395
皇嘉門院(藤原聖子)	61, 62, 177
久我清通	340, 364
久我通光	431, 440
久我通忠	431, 440
吾護丸(稚児)	146
五条院(禪子内親王)	115
五条(菅原)為学	280, 281, 303

五条(菅原)長冬 ②⑥-1【10】	139, 150
護正院宮	390
近衛兼経	434, 435
近衛政家	45
近衛前久	282, 293
惟宗広言	75
惟宗忠久	75

さ

西園寺瑛子(龜山妃)	434
西園寺禧子	→後京極院
西園寺公経	182, 201
西園寺公衡	124, 423, 434, 443
西園寺公宗【11】	151
西園寺公名	189, 194, 229
西園寺実遠	229
西園寺実兼	119, 123, 133, 183, 193
西園寺実氏	182
西園寺実種	390
西園寺実俊【11】	147, 149, 155, 228
三郎(藤六入道)	410
珊侍者	321
三条公為【17】	
三条公雅【17】	210, 362, 364, 366, 408
三条公秀【17】	199, 344
三条公親	416
三条公宣	284
三条公泰	114, 117
三条公忠【14】	155, 199, 228, 409
三条公敦	202, 261, 319
三条公豊【17】	319, 345, 364, 408, 409
三条公茂	409
三条公頼 ⑤【14】	271, 272, 282
三条公量(冬)【14】	268, 409
三条実音【17】	153, 199, 228, 319, 345, 395
三条実雅【17】	206, 209, 210, 335, 362
三条実躬	121, 184, 185
三条実教	282
三条実継【17】	319, 390, 396, 408
三条実香【14】	261, 272
三条実治【17】	345, 364
三条実尚(実量) ③②, ③③【14】	201, 238, 261, 282

正親町公蔭 201
 正親町持季 ㉓ 200, 236, 237, 241
 正親町実秀 255
 正親町(裏辻)実秀 ㉔ 199~201
 正親町実明 201, 236
 大中臣輔親 58
 大宮院(藤原姞子) 118
 大宮季衡 228
 大宮実尚 155
 小川重氏 321, 340
 小川浄喜 321
 小川禅啓 321, 322, 397
 小川二宮(後小松天皇皇子) 172
 小倉宮 229
 小槻雅久 【13】 269
 小槻兼治 164

か

快賢 321, 340
 懐良親王 184
 かかこ(伏見宮 皇女) 392
 覚雲 390
 覚恕 269
 覚助法親王 ⑩-5, ⑰-2, ⑱-2 【5】 115
 覚成 65
 覚道法親王 【16】 263
 鶴松丸 313
 花山院家輔 282
 花山院兼信 186
 花山院師信 186
 花山院持忠 ㉓ 237
 花山院忠経 95
 勧修寺尹豊 ㉕ 277, 283
 勧修寺教秀 ㉓, ㉔ 246, 262, 347
 勧修寺経興 366
 勧修寺経成 350, 366
 勧修寺経直 170
 勧修寺尚頭 ㉔ 187, 189, 263, 277
 勘解由小路仲光 150
 賀茂康久 226, 254
 賀茂在富 450
 賀茂在方 173, 349
 賀茂富久 ㉔ 225

蒲生貞秀 251, 252
 高陽院(藤原泰子) 46, 61, 183
 嘉楽門院(藤原信子) 【5, 14】
 19, 222, 224, 225, 241, 243, 255, 260, 451
 唐橋(菅原)在弘 146
 唐橋(菅原)在宣 172
 唐橋(菅原)在登 145, 146
 河鱈実治 ㉔ 268
 観心(伏見宮 皇女) 392
 寛尊法親王 146
 甘露寺兼長 187~189, 204, 432
 甘露寺元長 252, 293, 347
 甘露寺親長 ㉔
 211, 213, 216, 236, 242, 244, 249, 432
 甘露寺清長 432
 甘露寺忠長 432
 甘露寺房長 432
 岩千代 449

き・く

紀俊長 164
 紀親文 164
 紀通清 164
 喜子内親王 65
 熙仁親王(伏見天皇) 192
 宜秋門院(藤原任子) ⑩-9
 36, 52, 82, 91, 106, 177
 義高 ⑭-6 105
 北尾新二郎 【15】
 北御寮(入江殿) 390, 393
 京極為兼 【6】 193
 行深 【6】
 清原頼業 90
 清原良賢(常宗) 349, 366
 観子内親王 73
 九条経教 228
 九条忠基 147, 228

け

慶雲庵 390
 慶首座 390
 恵舜藏主 319, 345
 恵芳 399, 400, 410

350, 351, 355, 356, 361, 362, 364, 366, 372, 380~383, 390, 392, 404, 405, 453	
足利義持	161, 162, 167, 172, 173, 209, 210, 222, 229, 390, 394, 448
足利義勝	364
足利義種	277
足利義晴【14】	261
足利義政【14】	237, 238, 246, 364
足利義満【14】	48, 49, 153, 154, 156, 160, 161, 164, 165, 167, 168, 174, 194, 197, 204, 217, 222, 379, 390, 445, 448
足利義量【11】	172
足利尊氏	138, 146, 151
足利満詮	390
飛鳥井雅家	319
飛鳥井雅世	319, 340, 363, 364
安達景盛	71~73
安達盛長	71~73, 75
姉小路基綱	255, 264~266
阿野公具	362
阿野公廉②-6	
阿仏尼	419
綾小路信俊【8】	349
綾小路有俊【8】	301
安嘉門院(邦子内親王)	183
い	
為久	335
昱子内親王(齋宮)	184
郁芳門院(媞子内親王)	183
板倉入道	348
一条経嗣	159, 160
一条兼冬	277
一条兼良	220, 239, 251
一条実経	434, 441
一条冬良	44
一条能保⑫-2	95
一色式部少輔	295
五辻(源)為仲【8】	297
五辻(源)教仲【8】	320, 340, 341, 351
五辻(源)資仲【8】	129, 297, 411
五辻(源)重仲	320, 340~342, 351

五辻(源)諸仲【8】	297
五辻(源)朝仲⑩-4【8, 16】	129, 161, 169, 341, 402
今川義元	307
今川氏親	313
今御寮(入江殿)	389, 393
今出川院(藤原嬉子)	183
今出川季孝	44
今出川公行	390
今出川公富【10】	
殷富門院(亮子)	86, 87
う	
裏辻実秀	222, 223
裏松義資	206
裏松資康【11】	150
裏松(日野)重子	206
え	
栄寿院	364, 390, 408
栄仁親王(大通院)【16】	162, 169, 319, 320, 324, 326, 327, 329, 330, 333, 345, 359~366, 371, 382, 393, 395, 398, 400, 402, 410, 446
永福門院(藤原鐔子)【3】	120, 122, 123, 183, 193
円光院堯範	329, 330, 335
円宗房	390, 407
円修房(栄寿院 入江殿)【17】	336, 364, 390, 393, 407, 408
円窓房	390, 407
円陽院宗澄⑤⑥	302
お	
大炊御門経名⑤⑤【14】	241, 261, 271, 272, 282
大炊御門光忠	63
大炊御門信宗【14】	222, 224, 241, 255
大炊御門信量③③, ③④【14】	240, 241, 261, 272, 282
大炊御門宗氏	390
大炊御門冬宗	390, 393, 407
大内義隆	282

源経子 368, 383
 源兼子(内侍) ④-2, ⑭-8, ⑮-4
 39, 63, 104~107, 109, 110, 426
 源(庭田)源子(典侍) ⑳ [16]
 262~263, 277
 源孝(房)子(内侍) ⑦-3 77
 源(庭田)幸子(経子, 伏見宮南御方) [16]
 17, 19, 243, 297, 324, 368, 369, 383, 391
 源綱子(内侍) ⑪-10 96
 源(庭田)資子(杉殿) [16] 330, 400
 源重子(内侍) ⑪-11 96, 98
 源重子(典侍) 65, 66
 源職子(内侍) ⑨-6 85, 87
 源親子(典侍) 182, 186
 源清子(内侍) ④-3 63
 源盛子(内侍) ①-7, ⑦-5 [1]
 57, 65, 76, 77, 95
 源中子(斎宮内侍) ③-10 62
 源仲子(内侍) ㉓-4 [8] 128, 129
 源仲子(内侍) ㉖-6, ㉗-5 143, 145
 源長子(内侍) ②-4 59
 源澄子(伊与) 221, 222
 源(五辻)朝子(内侍) ㉑-4 [8] 169
 源(庭田)朝子(典侍) [16]
 239, 240, 243, 244
 源寧子 ①-12
 源平子(掌侍) 37
 源房子(内侍) ④-12 62, 63, 67
 源隆子 181
 美濃(内侍) ①-5, ②-2, ③-1
 5, 46, 56, 58~61, 121
 美作(内侍) ④-14, ⑧-3, ⑨-1, ⑩-1, ⑪-12
 38, 39, 43, 63, 79, 84, 89, 91, 96, 121
 三善行子(内侍) ㉓-3, ㉕-1
 128, 129, 137, 138, 151
 三善衡(維)子(勾当内侍) ㉖-4, ㉘-2 [6]

142, 143, 151~154
 三善佐子(内侍) ㉘-6, ㉙-4 142, 151, 156
 三善忠子 [6] 121
 民部卿(長楽門院) ㉒-2, ㉒-2 136
 民部卿(典侍) ㉓, ㉓
 16, 142, 152, 156, 161, 247, 249, 263

む

陸奥(女房) 55
 陸奥(命婦) 37, 52
 むめ(梅)(台所) ㉖ 302, 306~308, 314, 370
 むめ(伏見宮) 321

め

めこ(伏見宮) 321, 340
 目々(内侍) ㉓, ㉒ 252, 265, 280, 281
 目々(めめ)(典侍) ㉓, ㉒, ㉓
 239, 247, 263, 272, 273, 276, 278
 目々(めめ)(伏見宮) 321, 327, 373

や・ら

大和(女房) 55
 陽明局(廊御方) 395, 399, 400, 410
 頼子(典侍) 129
 冷泉 193
 冷泉(建春門院) [7]

わ

和気家子(伊与) ㉓
 222, 225, 239, 240, 243, 255
 和気郷子(伊子) ㉒ [5, 13]
 205, 207, 221~227, 241, 453
 和気就子(伊子) ㉒, ㉓ [13]
 269, 281, 282, 294
 和気成子(伊与) [13] 221, 222

【その他】

あ

あここ(伏見宮 皇女) 226, 328, 392
 浅原為頼 186, 207, 436

足利義熙(義尚) [14] 245
 足利義教 [17]
 173, 197, 198, 200, 202, 204~207, 210,
 214, 217, 220, 230, 259, 323, 331, 342, 345,

藤原(日野)宣子(典侍)【11】
147~150, 154, 163, 187, 199, 228

藤原(近衛)前子 282, 293

藤原(日野)宗子 320, 364, 366

藤原(広橋)仲子(典侍)【11】 156

藤原長子(典侍) 55, 58, 59

藤原朝子(内侍)⑧-9 80, 81

藤原朝子(内侍)⑩-9 123

藤原直子(内侍)⑨-11 87

藤原(三条)冬子(上臈)⑳【14】
17, 199, 201, 202, 228, 261, 268

藤原冬子(乳母) 182

藤原(勸修寺)藤子(典侍)
247, 262, 263, 266, 271, 277

藤原(高倉)藤子(内侍)㉑【12】
44, 203, 216, 218, 231

藤原任子(内侍)②-8 59

藤原能子(勾当内侍)㉒-2, ㉓-1, ㉔ 48,
50, 161, 162, 165, 167, 168, 170, 219, 411

藤原能子(内侍)⑧-6 34, 79, 80, 83

藤原博子(内侍)⑯-5, ⑰-2, ⑱-2【5】
39, 43, 48, 106, 111, 113~115, 118, 123

藤原範子(内侍)⑧-5【4】 79~81, 83

藤原繁子(内侍)④-11 62, 63

藤原保子 181

藤原輔子(乳母, 典侍) 180

藤原方子(内侍)②-6, ⑨-5 59, 85, 86, 88

藤原芳子(掌侍・典侍) 33

藤原豊子(乳母, 典侍) 191

藤原(日野)豊子(典侍)【11】

藤原(勸修寺)房子(典侍)㉕ 246, 262

藤原満子(乳母, 典侍) 181

藤原名子(内侍)㉖-5

藤原(日野)名子(典侍)【11】
26, 148, 149, 152, 189, 418, 437

藤原明子 37, 52

藤原(万里小路)命子(典侍)㉗ 240, 244, 258

藤原(下冷泉)茂子(内侍)㉘, ㉙ 268, 279

藤原有子 211

藤原(日野)頼子(典侍)㉚【11】
205, 211~214

藤原隆子(典侍) 37, 40

藤原隆子(典侍) 48, 148~150

藤原(高倉)量子(内侍)㉛【12, 15】
279, 280, 303, 313

藤原(中山)僚子(典侍)㉜ 189, 190, 211

藤原臨子(藏人・掌侍) 33

へ

别当 49, 193, 219, 224

别当(皇嘉門院) 66

别当(広義門院)【3】 119~121, 124

别当(後光厳院) 153

别当(後小松院, 菅原茂子)㉝-8, ㉞-3
168, 169

别当(後伏見院)㉟-1

别当(伏見宮) 320, 327, 359, 381, 396

弁(春華門院)【2】 116

弁(内侍)⑦-2, ⑧-2, ⑨-5, ⑩-3, ⑪-2, ⑫-2,
⑬-7, ⑭-2, ⑰-4, ⑱-2, ⑳-10, ㉑-4, ㉒-6,
㉓-4【1, 2, 3, 10】
26, 28, 34, 35, 37~39, 51, 77~80, 82, 85,
86, 88, 89, 91~94, 99, 105, 107, 113,
115~117, 119, 121, 123, 136, 137, 142,
156, 163, 415, 418, 423, 426, 434, 437, 438

ほ

伯耆(典侍) 55

坊門 134

坊門(室町殿) 222, 223

坊門(宣政門院)【6】

坊門(八条院) 424

堀川(後伏見院) 120

堀川(伏見院)【8】

み

三河(内侍)①-7, ⑥-5【1, 2】 57, 65, 73, 95

南御方(伏見宮)【16】 17, 206, 243, 297,
319~321, 324~327, 329, 330, 332, 333,
335, 336, 339~341, 343~345, 348, 350~
359, 361, 364, 367, 369~383, 385, 391, 393
~395, 400, 405, 411, 447, 455

源(庭田)盈子 344

源基子(西華門院)【7】

源経子(内侍)④-7 63

藤原久子(内侍) ④-5 63
 藤原教子【11】 149, 150, 182
 藤原郷子(典侍) 150
 藤原業子【11】 188
 藤原(水無瀬)具子(内侍·典侍) ③④, ③⑤【11】
 266, 271, 274~276, 282
 藤原経子(典侍) 16, 75, 180
 藤原(甘露寺)経子(典侍) 187~189, 204
 藤原経子(内侍) ②④-4【12】
 26, 122, 125, 129, 418, 437
 藤原慶子(典侍) 148~150
 藤原(柳原)慶子(典侍) 187
 藤原(高倉)継子(内侍) ③③, ③④, ③⑤【12】
 45, 253, 254, 265, 266, 278
 藤原(中御門·松木)継子(典侍) ③②
 211, 212, 215
 藤原兼子(典侍) 150
 藤原(中山)兼子(典侍) 190
 藤原(広橋)兼子(典侍)【11】
 藤原娟子(内侍) ②⑤-5【4】 114, 122, 125
 藤原憲子(内侍) ⑩-3, ⑪-2【1】
 28, 39, 89, 92~94
 藤原憲子(斎宮内侍) ①-14 57
 藤原憲子(順徳乳母)【4】
 藤原(広橋)顕子(典侍) ③③, ③④【11】
 187, 239, 240, 242~244, 247, 262
 藤原元子(内侍) ②-7, ③-2 59~61
 藤原(三条)敏子(上臈)【14】 199, 228
 藤原公子(中宮) ⑪-9
 藤原(日野)光子(典侍) ③②【11】
 167, 188, 189, 203, 206~209
 藤原光子(典侍)【4】
 藤原行子(内侍) ②⑦-7, ②⑧-8, ②⑨-5
 141, 145, 153, 155, 156
 藤原孝子(内侍) ②①-3【5】 124
 藤原宏子(内侍) ⑧-8 79~81
 藤原幸子(内侍) 38
 藤原高子(内侍) ⑬-4 118, 119
 藤原(日野)康子(北山院)【11】
 藤原(広橋)綱子(典侍) ③②【11】
 167, 187~189, 194, 203~208, 210, 223,
 362
 藤原(中山)興子(典侍) ③⑤ 277, 282

藤原(四条)衡子 ③② 213
 藤原(広橋)国子(典侍) ③⑤ 273, 275~277
 藤原(日野)資子(典侍)
 137, 138, 165, 167, 190
 藤原(日野)時子(典侍) 149, 150, 187, 188
 藤原実子 441
 藤原実子(内侍) ①-8, ④-4 55, 63
 藤原実子(乳母, 典侍) 180, 192
 藤原(広橋)守子(典侍) ③③, ③④, ③⑤
 187, 239, 247, 262, 272, 276
 藤原種子(内侍) ②⑥-3, ②⑦-2, ②⑧-5, ②⑨-3
 140~142, 144, 145, 154, 156
 藤原(三条)秀子【17】
 藤原修子(内侍) ③③ 249
 藤原重子(修明門院)【4】 91, 122, 183
 藤原淑子(尚侍) 37
 藤原俊子(内侍) ②⑥-5, ②⑦-3 143, 145
 藤原春子(内侍) ②⑧-3, ②⑨-1【4】
 141, 145, 152, 153, 155, 156
 藤原春子(典侍) ③④ 142, 152, 156, 161
 藤原(高倉)春子(内侍) 50, 190
 藤原(四辻)春子(内侍) ③②, ③③
 45, 220, 247~249, 253, 263, 264
 藤原璋子 425
 藤原順子(掌侍) 37
 藤原(勸修寺)尚子(典侍) ③④, ③⑤
 187, 263, 272~276
 藤原彰子 417, 418
 藤原(大炊御門)信子 ③② 19, 222, 224, 226
 藤原真子(内侍) ③-8 62
 藤原親子(内侍) ②⑧-7 152, 154
 藤原(甘露寺)親子(典侍) ③② 216
 藤原仁子(藤原道家女) 435
 藤原成子 182
 藤原(中山)政子(典侍) 189, 190
 藤原(河内)清子(内侍) ③④ 267, 268
 藤原盛子(内侍) ②②-4 127
 藤原(日野西)盛子(典侍) 190
 藤原(姉小路)济子(内侍) ③④, ③⑤
 265~267, 277, 278, 280, 303
 藤原積子(内侍) ⑩④-4 89
 藤原説子(内侍) ⑥-1, ⑦-1, ⑧-1
 38, 67~69, 76, 79, 80, 117

中務(内侍) ㉔-4 【12】	26, 122, 125, 129, 418, 437
中務(典侍)	179
中殿	395, 396
中内侍 ㉔	
44, 45, 216, 218, 240, 249, 252, 253, 257	
夏びき	134
難波(内侍) ㉔-8 【2】	102
鍋	292, 294, 311
に	
二位局(二位殿, 二位禅尼)	238, 261, 271
西御方	271
西御方(伏見宮) 【17】	320, 327, 345
二条(後深草院)	419, 437
二条(伏見宮)	224, 319, 320, 324, 326, 329,
330, 332, 333, 335, 339, 341, 343, 344, 346,	
347, 364, 371, 373, 376, 395, 446	
二条(乳母)	425, 439
は	
播磨(藤原孝道女) 【5, 8】	435
播磨 ㉓, ㉔ 【5, 8, 13】	78, 165, 225~227,
232, 239, 254, 268, 435, 452	
播磨(内侍) ⑦-8, ⑧-4, ⑪-8, ⑭-8, ⑮-4, ⑳	
-3, ㉑-2, ㉒-7	
30, 39, 77~79, 81~83, 96, 104~107, 109,	
110, 121, 122, 124, 133~135, 426	
春澄治子	37
ひ	
東御方	237
東御方(伏見宮) 【17】	167, 319~321,
324, 325, 327, 329, 330, 333, 335, 337,	
343~345, 347, 355~357, 373, 381, 382,	
393, 395, 396, 408, 409	
肥後(内侍) ①-11, ②-3 【3】	55, 56, 58, 59, 121
ひさ ㉔	
廊御方(伏見宮) 【17】	319, 324, 327, 329,
330, 332~335, 343~348, 352~355, 365,	
373, 395, 399, 400, 402, 403, 410, 447	
備前(高倉皇后宮)	74

備前(内侍) ④-13, ⑪-9, ⑫-7, ⑭-5, ㉒-3	30, 52, 64, 96, 102, 105, 127
常陸(内侍) ④-8	63
常陸(命婦)	66
ひつ ㉔	
備中(前斎宮)	105
備中(内侍) ⑧-13, ⑪-7	34~36, 38, 42, 43, 82
日向(命婦)	37, 52
兵衛(内侍) ③-7, ⑥-6, ⑦-9, ⑫-8, ⑮-6, ⑰	
-1, ㉓-3, ㉔-3, 8, ㉕-5	37, 39, 40, 49,
62, 74, 102, 109~111, 115, 119, 126, 137,	
138, 141, 145, 152, 153, 155, 156	
兵衛督	111, 415
兵衛督(光厳院)	138
兵衛督(花園院) ㉓-1 【3】	128, 131
兵衛佐 ⑨-8	87
兵衛佐(宜秋門院)	35, 36, 82
東洞院殿	262, 271
備後	55
ふ	
藤原惟子 ⑨-8, ⑩-5	87
藤原惟子(内侍) ①-3, ⑦-4, ⑨-8, ⑩-5, ㉓	
-7 【1, 2】	
54~56, 58, 61, 65, 77, 87, 88, 90, 92, 128	
藤原為子(典侍)	182, 184, 193
藤原(勸修寺)尹子(典侍) ㉓	277, 278
藤原尹子(内侍) ㉔-7	163
藤原(三条)尹子(瑞春院) 【17】	202, 206, 349, 366, 367, 380, 381, 392, 405
藤原因子(典侍)	16
藤原蔭子(内侍) ㉔-1 【4】	156, 161, 163
藤原盈子(内侍) ⑮-5	118, 119
藤原栄子(内侍)	83
藤原栄子	139
藤原(日野)栄子 【11】	
藤原(万里小路)栄子	283
藤原(四辻)夏子(内侍) ㉓	253
藤原家子(内侍) ③-9, ㉗-6	62, 145
藤原(中山)家子(典侍)	187
藤原季子(内侍) ⑩-9	91
藤原義子	37

29, 82, 104, 107~109, 126, 426
 平言子(内侍) ⑧-4 79, 81~83
 平衡子(内侍) ⑨-3 85, 86
 平治子(内侍) ⑩-3 118, 119
 平種子(内侍) ⑧-10 80, 81
 平清子(典侍) 【7】
 平禪子(内侍) ⑧-12, ⑨-2 【7】
 38, 81, 82, 84, 85, 126
 平知子(典侍) 150
 平仲子(内侍) ①-2, ②-1 【7】
 32, 38, 54, 58, 59, 126
 平棟子(内侍, 典侍) ⑮-6, ⑯-1 【7】
 39, 49, 109~111, 115, 119, 123, 126
 平範子(内侍) ⑧-11 【7】 81, 82
 平縫子(典侍) 【7】
 高階為子(内侍) ②-5, ③-3 【3】
 59~61, 121
 高階速子(内侍) ⑭-2, ⑮-1, ⑯-2, ⑰-1, ⑱-1, ㉓-1 【3】 29, 39, 104, 107, 109, 110, 113, 114, 116~120, 128, 131, 426
 高階雅子(内侍) ㉙-5 163
 高階愷子(内侍) 【3】
 高階貴子(高内侍) 121
 高階基子(内侍) ①-11, ②-3 【3】
 55, 56, 58, 59, 121
 高階業子(内侍) ①-5, ②-2, ③-1
 5, 46, 56, 58~61, 121
 高階公子(内侍) 59
 高階行子(内侍) ④-6, ⑧-4
 63, 79, 81~83, 121
 高階察(兼)子(内侍) ⑦-2, ⑧-2 【3】
 34, 35, 38, 77~80, 82, 91, 121
 高階実子 → 肥後(高階実子)
 高階秀子 ⑨-4, ⑩-2, ⑪-1 96, 121
 高階重子(典侍) 103
 高階仲子 ⑧-3, ⑨-1, ⑩-1 【3】
 38, 39, 43, 79, 84, 85, 89, 91, 121
 高階典子(内侍) ⑰-1, ⑱-1, ㉒-1 【3】
 39, 119, 120, 122, 124
 高階繁子(内侍) ①-13 57
 竹 293
 但馬(内侍) ②-7, ③-2 59~61
 橘広子(掌侍) 37

橘資子(内侍) ②-9, ④-1 63, 66
 橘知子(内侍) ㉘-4, ㉙-2 【7】
 152~154, 156
 橘繁子(内侍) 【9】 153
 橘平子(掌侍) 37, 40
 辰 292, 311
 たと(台所) ㉞ 302, 304, 312
 丹後(内侍) ⑥-3, ⑨-9 69~73, 75, 76, 87
 丹後局 72, 73, 76
 丹波(後鳥羽天皇乳母) 【3】
 丹波(内侍) ②-5, ⑥-4 【3】 59, 61, 73

ち

筑前(内侍) ⑦-6 77, 78
 茶々 【15】 304
 茶々子 294
 茶々々(長橋) ㉞
 忠子(内侍) ①-4 56
 中将(建春門院) 66
 中将(後鳥羽院) 【5】
 中将局 255
 中将(伏見宮) 321, 327, 340
 中納言(建春門院) 419
 中納言(新陽明門院) 115
 中納言(典侍) 【11】
 48, 149, 179, 415, 418, 434, 437, 441
 中納言(八条院・建春門院, 健御前)
 14, 100, 103

つ・て・と

鶴(女孀) 300
 定子(内侍) ②-10 60
 藤(内侍) ㉞ 254, 265, 279, 280, 303
 遠江(内侍) ①-8, ③-3 【3】 55, 59~61, 121
 常盤 100
 徳女 ㉞
 土佐(内侍) ②-4, ④-9, ⑫-6 【3】
 33, 46, 59, 63, 66, 67, 101
 とも ㉞

な

典侍禪尼 ㉙-1 168, 171, 217, 219, 402
 典侍禪尼(伏見宮) 329, 330

29, 32, 38, 39, 52, 54, 58, 62, 63, 67, 85, 86, 97~99, 102, 104, 107~110, 113, 114, 116, 117, 119, 120, 127, 133, 134, 137, 138, 140~142, 144, 145, 154, 156, 163, 415, 416, 426, 434
 少将(内侍)(藻壁門院)【2】 116, 117
 少将(典侍) 37
 少納言(西園寺実兼女房)【5】
 少納言(内侍) ⑦-7, ⑧-6, ⑩-5, ⑪-6, ⑫-3, ⑬-4, ⑭-3, ⑮-7, ⑯-2, ⑰-4, ⑱-2, 33, 34, 38, 39, 43, 77~81, 83, 88, 90, 92, 95, 99, 111, 118, 135, 140, 152, 153, 156
 少輔(内侍) ③-4, ⑤-2, ⑥-2, ⑧-12, ⑨-2, ⑪-5, ⑬-6, ⑭-3, ⑰-6, ⑱-5, ⑳-7【4, 7】
 38, 61, 67~70, 74, 81, 84, 96, 104, 105, 111, 113, 114, 122, 125, 126, 143
 少輔(典侍) 46
 上臈(三条実冬女) 165
 上臈(伏見宮) 319, 324, 327, 329, 332, 333, 337, 339, 341, 347, 349, 357, 373
 新(内侍) ⑳-8, ㉑-4, ㉒-6, ㉓-7, ㉔-4, 5, 6, ㉕, ㉖, ㉗, ㉘【7, 8, 9, 10, 12】
 143, 145, 151, 156, 159~161, 165, 166, 169, 170, 219, 220, 250, 251, 254, 259, 265~268, 275, 279~281, 292, 294, 303, 456
 新(典侍) ㉙ 147, 243~246, 262
 新少納言(女房) 55
 新大納言(典侍) 239, 240, 243, 244, 246, 247, 262
 新大納言(伏見宮)【16】 319, 324, 325, 340, 342~344, 373, 407
 新大納言(陽徳門院他) 183~185
 新大夫(広義門院)【6】
 新大夫(伏見宮) 320, 324, 340
 新中納言(建春門院)【7】
 新中納言(伏見宮)【16】 319, 324, 325, 333, 336, 337, 340, 373
 新中納言(室町殿) 277
 新兵衛 133

す・そ

周防(内侍) ①-2, ②-1, ⑨-7

32, 38, 54, 58, 59, 87, 126
 菅原(五条)為子(内侍) ㉚-1【10】
 48, 49, 51, 53, 139, 145, 146, 148, 150, 175
 菅原言子(内侍) ㉛ 250~252
 菅原(五条)好子(内侍) ㉜【10 15】 281, 303, 304
 菅原(東坊城)孝子(内侍) ㉝, ㉞【10】 216, 218, 231, 249
 菅原綱子(弁内侍) ㉟-6【10】 142, 156
 菅原(東坊城)松子(内侍) ㊱, ㊲ 44, 45, 219, 232, 249, 252, 253, 259, 264, 266, 456
 菅原是子(内侍) ㊳-6 123, 125
 菅原登子(内侍) ㊴-8 145
 菅原(東坊城)茂子(内侍) ㊵-8, ㊶-3, ㊷【10】
 44, 53, 169~171, 203, 216~219, 231, 250
 菅原(東坊城)和子(目々内侍) ㊸【10】 253, 265, 266
 杉殿(伏見宮)【16】 330, 333, 345, 363, 398, 400
 輔三位(土御門天皇乳母)【3】 102, 103
 帥三位(乳母) 55
 帥(典侍) 133, 142, 150

た

大進(伏見宮) 321
 大納言三位 180, 415
 大納言(典侍) 150, 178~195, 239, 240, 242~244, 247, 262, 415
 大式 ㊹-4【6】 124
 大式(安嘉門院)【2】
 大式(龜山院)【5】
 大式(後堀河天皇中宮)【7】
 対御方 193
 対御方(伏見宮) 319, 324, 330, 333, 343, 345, 396, 400
 大輔(永福門院)【8】
 平惟子(内侍) ㊺-6 112, 126
 平教子(播磨) 78
 平経子(内侍) ①-10 57
 平兼子(内侍) ㊻-8 118, 126
 平兼子(内侍) ㊼-3, ㊽-3【7】

京極(後白河院) 184
 京極(後深草院) 192
 刑部卿【6】 134
 刑部卿(後嵯峨・後深草院) ⑱-2【5】 115
 刑部卿(承明門院)【4】
 桐 292

 く・け
 宮内卿 171
 宮内卿(内侍) ⑳④, ㉑ 265, 266, 278, 415
 継子女王 149
 け、㉒

 こ
 ごい(五位) ㉓ 298~300, 305, 308
 こいま 133
 小今【13】
 小今(伏見宮)【8】 324, 340
 小今参(伏見宮)
 319, 320, 324, 325, 331, 339, 340
 皇后宮内侍 ⑨-11
 高内侍 119~121, 135, 192
 五々 ㉔ 255, 294, 295
 小督【13】
 248, 258, 259, 290, 291, 294, 310, 312
 小督(後深草院)【5】
 小督(伏見宮) 321, 327, 340, 373
 五条 95, 180
 小上臈(内侍) ㉕-参 130
 小大納言 133
 胡蝶 293, 296
 小内侍 ㉖ 220, 248
 近衛 243, 245
 近衛(伏見宮) 319, 320, 323~325, 330,
 332~337, 343, 351, 352, 356, 362, 365,
 373, 384
 木姫(藤原兼高母) 439
 小備中(前斎院) ⑤-3【3】 67, 121
 小弁 242
 権大納言(典侍) ㉗【11】 240, 244, 247
 権大納言(陽徳門院他) 183~186

さ

さい(才・祭)(内侍所) ㉘【8】 18, 297, 298
 宰相(典侍, 菅原為子) ㉙-1【10】
 49, 51, 139, 148, 150, 175
 宰相(典侍, 菅原茂子) ㉚ 179, 216, 218
 宰相(典侍, 平棟子) ㉛-1【7】 111, 139
 宰相(伏見宮) 321
 宰相乳母 191
 左衛門(内侍) ㉜ 250, 251, 266
 左衛門督 307
 左衛門督(後小松院) ㉝【10】 216, 218
 左衛門督(内侍) ㉞【10】 219, 250
 左衛門佐(後堀河天皇中宮)【7】
 左京大夫(後光厳院) 153
 讃岐 133
 讃岐(七条院)【5】
 讃岐(内侍) ⑩-7, ⑪-3, ⑫-4, ㉟-2, ㊱-5
 【3】 39, 43, 91~93, 99, 100, 101, 128, 137
 讃岐(典侍) 55, 58, 59, 418
 三条(西蓮) 431, 440
 三条(今出河院)【5】
 三条局(崇光院) 406, 408
 三位局(三位禪尼) ㉞ 246
 三位局(荣仁親王母) 398
 三位局(藤原範子)【4】

し

資子(内侍) 60
 資子女王 149
 治子女王 149
 侍従(内侍) ⑧-7, ⑭-3, ⑮-3, ⑰-8, ⑱-6, ⑲
 -3, ㉑-7, ㉒-4, ㉓-5, ㉔-3
 29, 80, 82, 104, 107~109, 118, 119, 123,
 126, 128, 129, 143, 145, 426
 四条 419
 治部卿 430
 治部卿(広義門院)【7】
 少将(広義門院)【6】
 少将(後堀河天皇中宮)【7】
 少将(内侍) ①-1, ④-12, ⑨-3, ⑪-13, ⑫-5,
 ⑬-1, ⑭-1, ⑰-5, ⑱-4, ㉑-2, ㉒-2, ㉓-2,
 4, ㉕-2, ㉖-3, ㉗-2, ㉘-5, ㉙-3, ㉚-3

114, 116~118, 121, 415, 426

う

右京大夫 ㉔ 293, 294
 右京大夫(龜山院) 【5】
 右京大夫(建礼門院) 419, 435
 右京大夫(承明門院) 【2】
 右京大夫(花園院) 【6】
 氏子(内侍) ㉔-6

え

永福門院内侍 ㉔-11 【3】 120, 123, 136
 越前(安嘉門院) 419
 越前(高倉院) 83
 越中(采女) 441
 越中(内侍) ①-6, ⑩-6, ⑪-4, ⑫-1 【1】
 28, 57, 65, 90~95, 99, 100
 衛門(女房) 55
 右衛門(内侍) ㉔ 253
 右衛門(典侍) 179
 右衛門督(後小松院) 162
 右衛門督(後深草院) 【8】
 右衛門督(待賢門院) 16
 右衛門督(内侍) ㉔-2, ㉔
 87, 168, 171, 217, 219, 220, 248, 292
 右衛門督(花園院) 【4】
 右衛門督(伏見院) 【3】 119, 120, 192
 右衛門督(伏見宮) 【12】 320, 323~325,
 331, 333, 337, 340, 342, 351, 359, 373, 400
 右衛門佐 419
 右衛門佐(高倉院) 83

お

御あい ㉔ 246
 御愛 ㉔ 263
 御阿茶々 256
 御今参/御いままいり ㉔~㉔ 254, 255, 281
 大藏卿局 17
 岡松一品 →藤原(日野)宣子(典侍)
 御五伊 268
 御乳人 239, 240, 256
 御乳人(伏見宮) 226, 227, 319, 321, 324,
 325, 328, 330, 333, 336, 338, 343, 344, 351,

356~358, 360, 373, 376, 377, 381~383

おと ㉔
 尾張(内侍) ⑭-参, ⑯-5, ⑰-2, ⑱-2, ㉑-3,
 ㉔-5 【5】 39, 43, 106, 111, 113~
 115, 118, 123, 124, 134

か

甲斐(高倉院) 81, 83
 甲斐(内侍) ⑧-5, ⑨-6 79~81, 85, 87
 か、(台所) ㉔ 302, 304~306, 308, 370
 加賀(内侍) ⑩-8 39, 43, 89, 92
 賀々(伏見宮) 226, 256, 321, 322, 328,
 333, 336, 343, 360, 376, 381, 383
 かか女 ㉔
 かさ ㉔
 春日(伏見宮) 【16】 319, 323~325, 328~
 330, 332~336, 340, 343, 344, 355~358,
 361, 364, 373, 376~378, 381, 383, 384
 春日局 17
 カチ 293
 かふろ(伏見宮) 320
 督(典侍) 【4】 435
 亀 293
 賀茂尚子 226, 260
 賀茂貞子(播磨) ㉔, ㉔ 254, 255, 268
 菅大典侍(菅大納言局) ㉔ 264, 265

き

紀(内侍) ㉔
 紀志子(内侍) 38
 紀順子(典侍?) 37
 紀文子(内侍) ㉔-6 163~166
 紀良子 156, 164
 紀伊三位(乳母) 55
 紀伊二位 82, 84
 如月(久我家領莊園) 440
 義子(掌侍) 38
 旧院上臈 ㉔, ㉔ 【14】
 238~240, 257, 261, 268
 卿(今出河院) 【5】
 卿(建春門院) 66
 卿(内侍) ㉔, ㉔, ㉔ 249, 266, 278
 卿二位(藤原兼子) 91, 95, 99~101, 122, 187

堀河天皇 ① 【1, 2, 3】

6, 18, 30, 38, 42, 46, 47, 54~57, 59, 61, 65, 165

ま行・ら行

村上天皇

37

冷泉天皇

37

六条天皇(院) ⑥-1, ⑦ 【3】

18, 33, 38, 68, 74, 76~78, 91, 439

【女 房】

あ

あゝ子(女孀) 300

青柳 134

あか ㊿

阿かゝ(台所) ㊿ 302, 308, 314

あかゝ ㊿

あかこ(伏見宮) 320, 324, 373

顕子女王(斎宮内侍) ④-16 65, 66

阿子 【15】 297

あこ ㊿ 301, 312

あこ(阿五・阿子)(采女) ㊿ 305

阿茶 264

阿茶(台所) ㊿ 【15】
288, 302~304, 307, 312, 314, 452

あちや(高倉永経妻) 407

あちや(伏見宮)
319, 321, 324, 340, 342~344, 373

阿茶々 ㊿ 【15】 262

阿野廉子(内侍) ㊿-6 133~135, 137

あや ㊿

あや(崇賢門院) 【16】

あやゝ ㊿

綾屋 296

阿波(内侍) ④-10, ⑤-1, ⑧-14
33, 46, 63, 64, 67, 82

按察 200, 415

按察(後円融院) 153

按察(崇光院) 【16】

按察(内侍) ㊿-8 123

按察(典侍・藤原光子) 【4】

按察(伏見院) 【8】

按察(伏見宮) 320

い

和泉式部 418

出雲(女房) 55

伊勢(内侍) ①-4 38, 56

一条(伏見宮) 319, 330, 333, 343

いちや ㊿

糸 293

いと(伏見宮) 321

田舎 293

因幡(内侍) ①-3, ③-6, ⑭-4, ⑮-5 【1, 2】
29, 54~56, 58, 61, 65, 104, 107, 109, 426

いはねを 134

いま(台所) 304

今々参(伏見宮) 320, 324, 331, 342, 359, 373

今御乳人(伏見宮) 322, 373

今上臈(伏見宮)
319, 326, 330, 332, 333, 339, 341

今参 ㊿ 225

今参(今参り、いままいり)
134, 165, 240, 257

今参(建春門院) 【3】

今参(内侍) ⑭-5 120

今参(伏見宮) 319~321, 324~326,
329, 340~343, 359, 364, 371, 373, 376,
383, 446

伊予(伊与) ㊿~㊿

205, 207, 221~227, 232, 239~241, 243,
255, 269, 281, 294, 452

伊予三位(乳母) 55

伊予(内侍) ③-5, ⑥-1, ⑦-1, ⑧-1, ⑨-4, ⑩
-2, ⑪-1, ⑭-2, ⑮-1, ⑯-2, ⑰-1, 7, ⑱-1
29, 38, 39, 43, 61, 67~69, 76, 79, 80, 85,
86, 90~93, 96, 104, 107, 109, 110, 113,

280~283, 285, 287, 289, 298, 303, 305, 307, 447, 450, 456
 後二条天皇 ㉒ 【2, 7】 39, 40, **125**, 126, 128, 136, 164, 182, 184, 185, 193, 437, 456
 後花園天皇 ㉓ 【10, 12, 16】 6, 19, 44, 169, 187, 188, 196~200, 202~208, 211, 212, 214~216,
 219, 222~224, 226, 227, 230, 235, 236, 238, 239, 241~243, 250, 251, 255, 256, 282, 296, 317, 319,
 321, 331, 336, 344, 359, 371, 376, 383, 390, 398, 404, 405, 446~448, 453~455
 後深草天皇(院) ㉔-2, 3, 4, 5, ㉗ 【2, 6, 5, 8】
 39, 43, 45, 48, 51, 111, **113**~115, 118, 121, 182, 184, 415, 434, 435, 445
 後伏見天皇(院) ㉕ 【3, 5, 6】 39, 119, 120, **124**, 181, 201, 423
 後堀河天皇(院) ㉖, ㉗-1, 3, 5 【5, 7】 16, 28, 39, 52, **104**, 106~109, 115, 126, 182, 184, 426
 後村上天皇 ㉘-6
 後陽成天皇 282, 293, 443
 後冷泉天皇(院) 38, 41, 54, 58, 92
 後一条天皇 37
 光孝天皇 37
 光嚴天皇(院) ㉙ 【17】 40, 51, 135, **137**, 138, 145, 148, 151, 153, 182, 201, 222, 319, 344, 407, 423
 光明天皇(院) ㉚ 【10】 40, 48, **138**, 139, 145, 148, 154, 390, 391, 408
 近衛天皇 ㉛ 【1】 33, 38, 41, 42, 46, **62**~65, 67, 92, 95, 101

さ行

三条天皇 37
 四条天皇 ㉜-2, 7, 8, ㉝ 【2, 7】 39, 43, 104, 105, **107**~109, 111, 115, 182, 426, 434
 順徳天皇(院) ㉞-4, 6, 13, ㉟ 【2, 3, 4】
 4, 35, 36, 39, 91, 93~**99**, 104, 108, 110, 121, 130, 180, 184, 221
 称光天皇 ㊱-2, ㊲ 【8, 9, 10, 12】 6, 50, 161, 165, **167**, 170~172, 174, 187~189, 196, 199, 200,
 204, 208, 210, 218, 222, 223, 229, 239, 255, 258, 402, 411, 434, 446, 453
 白河天皇(院) 【3】 7, 32, 35, 38, 41, 46, 57, 61
 崇光天皇(院) ㊳-3, 5, 6, ㊴ 【16, 17】 40, 139, 140, 143~**145**, 162, 169, 175, 187, 189, 197, 201,
 318, 319, 326, 333, 341, 345, 349, 361, 364, 366, 390~392, 398, 402, 408, 410, 411, 447
 朱雀天皇 37, 40
 崇徳天皇(院) ㊵-2, 7, ㊶ 【3】 38, 41, 46, 47, 59, **60**~62, 67, 69, 177

た行

醍醐天皇 37, 52, 427
 高倉天皇(院) ㊷-1, 2, ㊸ 【3, 7】 33~36, 38, 52, 68, 69, 74, 76, 77, **79**~82, 91, 117, 126, 180, 424
 仲恭天皇 ㊹ 39, 95, 98, **102**, 104, 108
 土御門天皇(院) ㊺-2, 3, ㊻, ㊼-7 【2, 3】
 30, 39, 43, 91, **92**, 93, 96~98, 100, 102, 105, 110, 181, 200, 214, 450
 鳥羽天皇(院) ㊽-2, 5, ㊾ 【3】 38, 41, 42, 47, 54, **58**, 60, 61, 180, 192

な行・は行

二条天皇 ㊿ 【1, 2】 18, 38, 65, **67**, 68, 71~76, 180, 439
 花園天皇 ㊽ 【3, 4, 6, 8, 12】 40, 119, 120, **128**~130, 132, 136, 137, 182, 201, 232, 435, 440
 伏見天皇(院) ㊾ 【3, 6】 39, 51, 114, **121**~124, 182, 184~186, 193, 201, 207, 232, 436

人名索引

※天皇・女房・その他に分類して掲載

※原則として氏・家の名は訓読みで 名前は漢音読みで配列

※名前のあとの数字 (例)①-1, ②-1 は巻末の表の番号

【1】【15】は同じく系図の番号を表している

【天 皇】

あ行

安徳天皇 ⑧-3, 12, ⑨ 【3】	38, 39, 73, 79, 81, 84~88, 90, 180, 424, 425
一条天皇	37, 439
宇多天皇	37
円融天皇	37, 121
正親町天皇(院) 【12】	273, 275, 276, 278, 283, 287, 303, 306, 307, 310, 443

か行

花山天皇	37, 52
龜山天皇 ⑱ 【4, 5】	18, 39, 116, 118, 119, 182, 184~186, 437, 456
後宇多天皇 ⑲ 【3, 7】	16, 18, 39, 118, 124, 181, 438
後円融天皇 ⑳ 【4, 9, 10, 14】	140, 147, 148, 153, 154, 165, 172, 174, 187~189, 199, 208, 390, 393
後柏原天皇 ㉑ 【10, 12, 14, 16】	44, 187, 195, 219, 221, 235, 238, 242, 243, 246, 247, 251, 253, 260~263, 268, 269, 272, 282, 283
後光厳天皇 ㉒-2, ㉓ 【6, 17】	140, 141, 145, 146~148, 151~153, 156, 163, 187~189, 199, 208, 222, 345, 393
後小松天皇(院) ㉔ 【3, 4, 14, 10】	48, 49, 144, 154, 157, 160~165, 168, 169, 174, 187~189, 197, 199, 201~204, 206, 208, 209, 214, 216~219, 222, 223, 227, 229, 301, 330, 331, 355, 361, 362, 367, 371, 383, 389, 390, 404, 444, 445, 446, 448
後嵯峨天皇(院) ㉕-1, 6, ㉖, ㉗-1, ㉘-1, 2 【5, 7】	39, 43, 45, 110, 111, 114, 115, 117, 118, 126, 174, 182, 434, 435
後三条天皇	7, 38, 57, 58
後白河天皇(院) ④-10, ⑤ 【3】	7, 33, 38, 46, 63~65, 66, 68, 86, 89, 101, 102, 126
後崇光院	390, 391, 453, 454
後朱雀天皇(院)	37, 38, 92
後醍醐天皇 ㉙, ㉚-8 【2, 12】	24, 40, 51, 129, 130, 132, 133, 135, 136, 138, 139, 182, 184, 437
後高倉院	104, 106
後土御門天皇 ㉛, ㉜ 【5, 1】	19, 44, 187, 202, 218, 220, 221, 222, 225, 226, 235~238, 241, 243, 244, 246, 250~255, 258, 264, 268, 282, 283, 285, 443, 448, 451, 455
後鳥羽天皇(院) ⑨-1, 4, 8, ⑩, ⑪-2, 3, 4, ⑫-1, 2, 3 【1, 3, 4, 5】	7, 18, 30, 36, 39, 43, 65, 78, 82, 85, 88, 89, 91~96, 98~101, 105, 122, 174, 181
後奈良天皇 ㉝ 【10, 12, 14, 15, 16】	187, 221, 236, 247, 261, 262, 265~269, 271~276, 278,

◎著者略歴◎

松蘭 齊（まつぞの・ひとし）

1958年生。九州大学文学研究科博士後期課程満期終了退学，
博士（文学）。愛知学院大学文学部教授。日本古代・中世史。
『日記の家—中世国家の記録組織』（吉川弘文館，1997年），
『王朝日記論』（法政大学出版局，2006年），『日記で読む日
本史13 日記に魅入られた人々—王朝貴族と中世公家』（臨
川書店，2017年），『日記で読む日本中世史』（共編著，ミネ
ルヴァ書房，2011年）など多数。

ちゅうせいきんりにょうぼう けんきゅう
中世禁裏女房の研究

2018（平成30）年11月9日発行

著者 松蘭 齊

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860（代表）

印刷 亜細亜印刷株式会社
製本

© H.Matsuzono 2018 ISBN978-4-7842-1956-8 C3021